

## I 研究主題

『共に生きる力』を育む「あたらしい指導と支援」づくり  
～授業改善を中心とした学部間連携～

## II 主題設定の理由

現代社会が、「共生社会」の実現に向けて急速に変貌を遂げつつある中、本校は、子どもたちが将来社会の一員として積極的に社会参加・自立していくことを願い、「自立と社会参加を目指して、自ら学び、心豊かでたくましく生きる児童生徒の育成」を教育目標とし、さらに「笑顔いっぱい、力いっぱい、夢いっぱい」を校訓としている。そしてその目標のもと、本校の児童生徒は児童生徒同士、教職員、保護者、あるいは地域社会など彼らを取り巻く様々な人々とのつながり、それぞれの思いや願をもって生活している。この人々とのつながり、思いや願い、それぞれの立場を正しく理解し、共に助け合い、励まし合い、支え合って生きていくことができるために、本校では児童生徒のライフステージと周りの環境とのかかわりに必要な力として『共に生きる力』\*を定めている。

「共に生きる力」とは、本校がこれまで取り組んできた研究の成果であり、本校におけるキャリア教育の基礎となるとともに、本校の教育理念として掲げられているものである。

本校でも障がいの重度化・多様化への対応は課題の一つであり、教育課程の見直しや授業の改善の必要性から、平成24年度から3ヶ年にわたって『共に生きる力』を育む「授業づくり」（寄宿舎研究班においては、「授業づくり」を「支援の在り方の改善」と読み替え）という研究主題のもと、研究を進めてきた。学校全体を4つの大きなまとまりに分け（小中高の各学部と寄宿舎）、さらにそれぞれの中で児童生徒の実態やニーズに応じた研究班をつくり研究に取り組み、綿密な計画に基づいた授業実践や評価・改善を行うことができ、寄宿舎においても多くの創造性豊かな支援を行うことができた。

一方で、学部間の連携や共通理解、実態の多様化における教育課程の改善や学習グループの編成についての工夫、キャリア教育の更なる推進等課題も見受けられる。また、近い将来改訂される学習指導要領への対応や、そこに登場するアクティブ・ラーニングへの対応、カリキュラム・マネジメントという視点での取り組み、本校における合理的配慮への具体的な取り組みなど予想される課題も山積している。

以上の点を踏まえ、研究一年次の昨年度は、『共に生きる力』を育む「あたらしい指導と支援」づくり」という主題の元、事前調査をもとに設定した本校の課題ごとに、各学部の職員で混成するチームを編成した。そして学部の壁を越えて諸課題を見つけ出し、それらの解決にあたって必要な取り組みを模索した。

研究を進める上で、共通理解事項を以下のように設定した。

- ① 研究班における課題解決のための仮説を立てる
- ② 研究計画を立てる
- ③ 教育課程や指導計画の見直し、改善などを行う
- ④ 教材研究を行う（授業改善が課題となっている班が中心）
- ⑤ 授業研究を行う（授業改善が課題となっている班が中心）
- ⑥ 研究の評価を行う

成果としては、各学部での取り組みについて情報交換が行われたり、普段一緒に指導・支援にあたる機会が少ない職員間の交流が増えたりするなど、次年度本格的に授業改善に取り組む土壌ができたと言える。また具体的な取り組みや計画を立案する過程で、柔軟な発想や新たなアイデア等が提案されるなど、研究としての取り組みに大きくプラスとなった。

課題としては、主題の捉え方について、複数学部の職員が混成している研究チームにおいて、取り組みの的を絞りにくい、方向性をもう少し明確に示してほしい等の意見をいただいた。

そこで二年次の今年度は、全体の研究主題に副題をつけ、その副題に方向性としての“キーワード”、つまり「学部間連携」「授業改善」の2つを盛り込んだ。「学部間連携」については、前年度によい方向に向かった連携をさらに加速させ、みやざき中央支援学校が一枚岩で児童生徒の児童・支援に向かうような学校風土をさらに醸成させたいと考える。つまり、本校は学校として非常に大きな規模であるが、小・中・高の一貫した指導・支援に取り組んでいるということを確認させたい。それは、保護者や関係機関の方々が本校のどの教職員とやり取りをしても一貫性を感じてもらい、本校に対する信頼を得るために必要不可欠であり、何をおいても一番は、そういう環境の中で成長する児童生徒のためである。

また「授業改善」については、現在の授業の手直しの改善ではなく、各学部の教職員が、小中高という一貫した流れ、教育課程の視点から、自分が今受け持っている児童生徒がこれまで「どのようなことを学び」、「今、何を身につけさせ」「これからどのように繋げていくか」ということを意識した授業改善、教育課程の改善を期待したい。これは、キャリア発達を支援する観点からも重要であり、カリキュラム・マネジメントの面からも極めて重要である。

さらに必要に応じて、各研究チームの実践や本校の今日的課題についての研修も行う。課題解決に向けて全職員で積極的に取り組んでいきたいと考える。また研究にあたっては、PDCA サイクルで取り組み、成果や課題を明確にし、新たなステージに進めるような研究でありたいと考える。

### ※『共に生きる力』について

本校がこれまでの研究において、児童生徒の生活年齢の段階と周りの環境と関わりにおける必要な力をまとめたもの。

- |           |        |            |              |
|-----------|--------|------------|--------------|
| ①健康体力     | ②身近生活力 | ③余暇を楽しむ力   | ④コミュニケーション能力 |
| ⑤自己選択、決定力 | ⑥働く力   | ⑦経済活動への参加力 | ⑧その他         |

の8つからなっている。

『共に生きる力』とは、障がい等も含めて多様な人々が同じ社会に生きる人間として、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合っていく社会にあって、児童生徒が地域社会の一員として生涯にわたって様々な人々と交流し、主体的に社会参加しながら心豊かに生きていくことができる力と捉え、本校の教育活動を考えるときに大切な概念としている。

### Ⅲ 研究のゴールイメージ

「あたらしい指導と支援」の基盤となる、みや央版『大切にしたいこと・育てたい力』を構築し、各学部・寄宿舎の職員がそれを理解する。またそれを基盤とした教育活動を実践し、授業改善や研修を通して専門性の向上を図り、地域の特別支援教育のセンター的機能としての役割を果たす。

### Ⅳ 研究の仮説

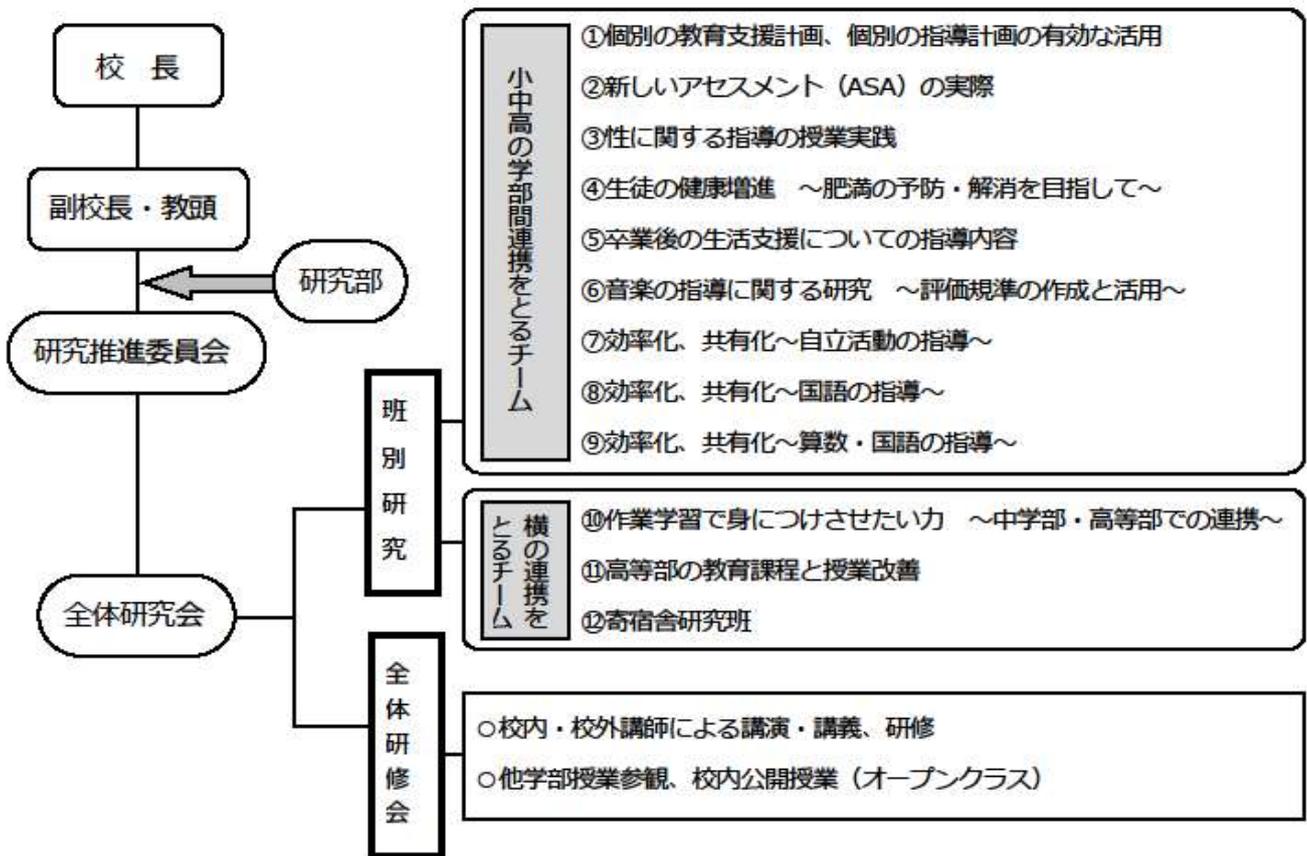
『共に生きる力』の考え方を基に、児童生徒一人一人の指導・支援の改善や新たな指導・支援の在り方・工夫をもって「あたらしい指導と支援」を行えば、児童生徒の望ましい成長・発達が促され主体的な学びが実現すると同時に、教職員についても資質の向上につながり、児童生徒の自立と社会参加の資質向上及び本校のセンター的機能充実及び向上にもつながるであろう。

### Ⅴ 研究の内容

『共に生きる力』を育む「あたらしい指導と支援」について、学部間連携を中心に捉え、授業改善や教育課程の改善について、各学部の職員で混成されるチームで取り組み、他学部の視点や柔軟な発想で、本校の教育課題について、授業を通して評価、検証改善を行う。

また、全体研修においては授業研究の在り方や諸課題の解決に必要な研修、特性に応じた支援等、実践的指導力と専門性の向上を図ることを目的とした研修を行う。

### Ⅵ 研究の組織



## VII 研究の方法

### 【編成】

研究一年次の終了時に、「継続したいもの」「一定の目標を達成したと思われるもの」「新たに取り組みたい課題」等について職員に調査を行い、一年次のチームをベースに今年度の研究チーム再編成を行った。今年度については、小中高を縦断した編成の班の割合を増やし、12 チーム中 9 チームを各学部混成のものにした。

	平成 28 年度 各研究チームのテーマ	職員構成
①	個別の指導計画・個別の教育支援計画の効果的な活用	小・中・高
②	あたらしいアセスメント(ASA)の実際	小・中・高
③	性に関する指導の授業実践	小・中・高
④	生徒の健康増進～生涯を通して健康でいきいきとした生活を送るために～	小・中・高
⑤	卒業後の生活支援についての指導内容	小・中・高
⑥	音楽の指導に関する研究～評価規準の作成と活用～	小・中・高
⑦	効率化、共有化～自立活動の指導～	小・中・高
⑧	効率化、共有化～国語の指導～	小・中・高
⑨	効率化、共有化～算数・数学の指導～	小・中・高
⑩	作業学習で身につけさせたい力～中学部・高等部での連携～	中・高
⑪	高等部の教育課程と授業改善	高等部
⑫	寄宿舎研究班	寄宿舎指導員

### 【運営】

チームにおいては、課題を解決する具体的な指導・支援内容について実践、検証授業の計画、実施、評価について取り組む。進捗や確認、了承については、随時各学部会等で行う。(今年度については、9月末に各チームの報告や取り組みの承認を得るための学部会を設定。全職員に対しては、各チームの進捗についてペーパーを提出していただき周知を図る。)

授業研究については、各チーム単位を中心に行う。研究授業実施にあたっては、職員朝会等を活用して事前に連絡し、できるだけ多くの職員で研修できるよう配慮する。

### 【共有・評価】

各チームの実践については、2月19日(金)に予定されている、全体報告会で行う。報告会の形式は、ポスター発表で、チームごとに発表する。

報告会終了後にアンケート調査を実施。最終年次に向けて意見や要望等を集約する。

## VIII 全体研修について

本校の教育課題の解決に必要なことを学び、知肢併設校、センター的機能を果たす特別支援学校として必要な専門的指導力の向上に関する研修を行う。

### 【校内講師による研修】

- 専門的指導力の向上を図るための基礎的内容で実施する。
- 校内に在籍する専門知識や経験等を有する人材に、講師を依頼する。
- 方法、内容としては、新転任者向け研修、障がいや指導法に関する研修、進路指導主事や特別支援教育コーディネーターによる研修等。

### 【専門的指導力の向上に関する研修】

- 職員のニーズや専門的指導力の向上に必要と思われる内容について、時期を捉え研修会を計画、実施する。
- 講師は、校内外より招聘する。

### 【校内公開授業（オープンクラス）・他学部授業参観の設定】

研究の成果・検証としての授業実践を広く校内職員に公開し、授業研究の一環として取り組む。これにより授業力改善に資することはもとより、研究のキーワードである「学部間連携」の推進を一層図る（オープンクラス）。

また、他学部の授業を自由に参観できる機会を設け、校内の学部間の交流をより促進させ、小中高の一貫した指導・支援の取り組みに資するものとする（他学部授業参観）。

## IX その他

- 各校務分掌が実施する研修についても、必要に応じて積極的に運営に協力する。
- 全体研修の内容や講師の選定については、校内研究との連携が取れたものとするよう努める。
- 全体研修・研究については、その意義を確認し、内容や場の工夫を行い、多くの職員の満足度を高め  
る研究・研修となるよう努める。
- 組織が大きく職員数が多い本校において、研究を円滑にすすめるために下記のことについて共通理解を図った。
  - ① 学校（職員）全体で取り組み、研究において立場は対等であること。
  - ② 討論は自由であり、意見は代案をもった建設的な「改善案」であること。
  - ③ 結論を全体の総意とすること。
  - ④ 解決方法が具体的で明確に出せること（～したい、で終わらない）。

## 個別の指導計画・個別の教育支援計画の効果的な活用班 研究のまとめ

### ア 研究のねらい

平成20年3月に告示された幼稚園教育要領、小学校及び中学校学習指導要領及び、平成21年度の3月に告示された高等学校学習指導要領において、障がいのある幼児児童生徒の指導の在り方が明確にされました。これにより、各学校等において特別な教育的支援が必要な幼児児童生徒の指導や支援において「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」を作成し活用しながら組織的、計画的に取り組むことがより一層求められるようになった。

しかし、本校では作成はしているものの学校全体としては十分に活用できていないという状況が昨年度の研究から明らかになった。そこで本研究班では、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の作成や効果的な活用法に関する研究を進めることにした。

### イ 研究の内容

- (ア) 個別の指導計画を作成するための目安となる資料（全学部で使える個別の教育支援計画）を作成する。
- (イ) 本校の個別の指導計画の様式や運用状況について見直しや改善をする。
- (ウ) 個別の指導計画（個別の教育支援計画）の効果的な活用についての現状を確認する。

### ウ 成果と課題

#### (ア) 研究内容（ア）について

個別の指導計画は、保護者との面談や個別の教育支援計画、児童生徒カード、進路の情報他複数の資料を活用して作成するが、資料、情報量共に多く煩雑さを感じていた。そこでそれぞれの情報を一括して見られ、児童生徒の全体像が分かる資料（フェイスシート）になるように個別の教育支援計画全体を見直すことにした。まず、チーム研では、個別の教育支援計画の項目や記入内容について検討し試案となるものを作成して教務部へ提案した。次に教務部会で項目や記入内容について協議を行い、来年度からの使用についての承認が得られたので、職員会で全職員に提案し、来年度4月から全学部で一斉（作成学年から順次）に使用することになった。(添付資料1)

#### (イ) 研究内容（イ）について

高等部の個別の指導計画については、項目の多さから作成に時間を要すること、授業への活用や引き継ぎの資料としての活用が十分にできていないことがわかった。また、保護者に提示して目標や内容の説明をするものの複数枚にわたり多くの情報を提示することから十分に理解していただいているかの疑問であった。そこで効率よく作成でき活用しやすいもので、保護者にも理解していただきやすい個別の指導計画の様式の検討を学部研（高等部）で行った。学部研で作成した試案を高等部学部会に提案し、項目や記入内容について検討・協議を行い学部の承認が得られたので、来年度から新様式 (添付資料2) を使用することになった。また、学部研では記入例を基に項目の説明や記入の方法、活用についての解説も行った。その際、目標は簡潔かつ具体的に記入すること、手立てには合理的配慮を盛り込むことなど運用のポイントを押さえながら職員の共通理解をはかった。

#### (ウ) 研究内容（ウ）について

小中学部については、個別の指導計画を活用して日々の指導や支援が効果的に行われているかどうかについて研究授業を行い、『個別の指導計画をもとにした目標/手立てチェックシート』(添付資料3, 4) を使って、個別の指導計画が授業に活かされているかどうかについて検証した。

a 小学部

指導案 (添付資料5) の目標の欄に個別の指導計画 (添付資料6) の項目を番号で明記することでこれまで以上に目標や学習活動を設定する際に個別の指導計画を意識することができた。その後もより効果的な活用の方法を考えながら日々の授業に活かすことができている、引き継ぎ資料等としても効果的に活用していきたい。

今回の研究を通して学部が学級の目標に反映されていないという課題が明らかになった。このことについては、個別の指導計画に学部の目標が反映されるよう年度初めに学部で共通理解をする時間を設定することにした。

b 中学部

中学部では、美術と作業学習（家庭班）で検証授業を行った。中学部は教科担任制で学級担任以外の職員が授業を行うため、指導案 (添付資料7) を検討する際に学習活動だけでなく生徒一人一人の目標や手立てについて個別の指導計画と整合性が取れているかの確認をした。その際に美術だけでなく自立活動の目標や手立ても参考にすることでより細かい支援を考えることができた。また、作業学習の家庭班では生徒一人一人の個別の指導計画から教科や自立活動の目標を抜き出し生徒の全体像を把握してから生徒の目標を設定したり、学習活動を設定したりしているという効果的な活用の例 (添付資料8) を学部職員に提示することができた。今回の研究を通して学部で個別の指導計画の活用を提示することができたが、個別の指導計画の目標や評価などを見ると学部の全職員が効果的に活用できているとは限らないことが分かる。教科担任制のため目標の設定や評価などを効率よく行う方法について今後も検討していく必要があると感じた。

また、中学部の学部研で高等部の取組として新様式を提示したところ中学部の個別の指導計画と項目や記入内容が同じであることや様式1があることで生徒の全体像が分かりやすいという意見が多くあり、中学部も来年度から高等部と同じ様式を使用することになった。

(エ) 研究全般を通して

本研究班のテーマである「個別の指導計画・個別の教育支援計画の効果的な活用」について班員一人一人がそれぞれの視点で意見を出し合いそれを集約することで、個別の教育支援計画新様式を作成し、来年度から全学部で使用することになった。今後は、それぞれの学部での引き継ぎ資料にとどまらず、全学部で1つのスケールを使うという利点を活かし、「教育目標の具現化構想（学校要覧 P7）の各教育課程において『大切にしたいこと』『身に付けさせたい力』との整合性を取りながら小中高での目標や指導内容のつながりを意識していく必要がある。

参考文献、参照資料

- ・ 「特別支援教育充実ガイドブックⅢ-4 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・活用・引き継ぎ日付:2015年05月30日」 熊本県教育委員会
- ・ 「個別の指導計画」・「個別の教育支援計画」ガイドブック 平成26年3月 福岡市教育委員会
- ・ 宮崎県教育研修センター「みやざきの特別支援教育」
- ・ 個別の指導計画 Q&A 東京都
- ・ 平成23年「教育研究員研究報告書」 東京都教育委員会

県立みやざき中央支援学校（高等部）教育支援計画（進路の記録・フェイスシート

も兼ねる。）例

※小1・小4・中1・高1で作成。記載後は、朱書き訂正となります。追加は、黒で加筆する。

ふりがな 氏名	ひゅうが いちろう		学部	高等部	高等部	高等部
	日向 一郎		学年	1年	2年	3年
			記載日	H28/5/1		
			記載者	〇〇〇〇		
性別	男	生年月日	平成11年8月5日	住所	宮崎市大字島之内2100番地	
電話	0985-39-1633					
ふりがな 保護者氏名	ひゅうが たろう 日向 太郎		家族構成	父、母、兄、妹、祖父、祖母		障がい名 広汎性発達障害
療育手帳	有 ( A B-1 B-2 ) 無		身体障害手帳	有 ( ) 無		
現在の生活についての本人・保護者の希望						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時計を見て、時刻を考えて行動してほしい。</li> <li>・お金の使い方を覚えてほしい。</li> <li>・ルールを守って行動し、困ったときは相談できるようになってほしい。</li> </ul>						
卒業後の生活についての本人・保護者の希望						
生活の場所	自宅			進路	一般就労あるいはA型事業所	
経過	平成18年宮崎市立〇〇小学校入学 平成19年12月アデノイド除去手術 平成20年4月みやざき中央支援学校小学部3年転入 平成24年同校中学部入学			興味 関心 (余暇)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昆虫や草花（たんぽぽの綿毛）に興味がある。</li> <li>・休日を利用して書道教室に通っている。入賞もあり個展を開いた。</li> </ul>	
				生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業中など、準備してある朝ご飯を食べたり、カップ麺を食べたりして、両親が不在でも自宅で過ごせる。</li> </ul>	
現在の様子	項目	様子・指導や支援のポイント				
	身辺処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身辺処理はほぼ自立している。素早く着替えて給食の配膳を行え、分量を考えながら適量を盛り付けることができる。</li> <li>・小便器を使わずに、便座に座るが多い。大便是時間がかかるようで、授業によく遅れる。</li> </ul>				
	運動健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜12時前後に就寝し、朝は起こされないと起きない。休日は9時ごろ起床している。</li> <li>・自分で上着を着脱して、体温を調整できる。</li> <li>・体を動かすことはできるが、昼休みなどに進んでスポーツを楽しむことは無い。</li> </ul>				
	行動・対人関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け答えなどは、はっきりとしている。嫌なこともしっかり伝えられる。</li> <li>・本を好み、よく読む。自分の好きなポケモンなどの知識が豊富である。</li> <li>・思い込みがあり、周りが考えているより激しいことがある。</li> <li>・同じ中学部出身の生徒（〇〇くん、〇〇くん）と、ポケモンや妖怪の会話を楽しむ。</li> <li>・イヤーマフ、音などが気になると、気になっているということを話さずにいられない</li> </ul>				
	認知学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の事に気をとられないと、学習内容や作業内容を理解して、集中して取り組める。</li> <li>・時間を意識した行動、次の活動を見通した準備などはもう少しである。</li> </ul>				
	作業学習の記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高1 作業：窯業班</li> <li>・高2 作業：木工班</li> <li>・高3 作業：受注班</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>実習：千切り班 (校内)</li> <li>実習：〇〇スーパー (校外)</li> <li>実習：〇〇産業 (個別)</li> </ul>		
	特に配慮すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業などに関係なく自分の好きなことを禁止されるとトイレに逃げ回るなど、衝動的な行動がある。</li> </ul>				
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道の経験があるので、学習に取り込むと積極的になる。</li> </ul>					

関係機関による支援	分野	支援機関名	担当者及び連絡先	支援内容
	余暇 地域 生活	SO	.....	毎週土曜日スイミング
		△△書道教室	.....	週1回程度 △△教室にて練習 発表会にも参加
	医療 健康 療育 福祉	△△病院	Dr △△	年一回 心臓検診
		△△病院	Dr □□	ホームドクター 風邪などの時に受診
		△△療育センター	PT○○	月1回療育：身体ストレッチ等
サポートセンター		○○さん	福祉サービスに関する情報提供・相談対応	
相談事業所	○○○○	○○さん	サービス利用計画作成など	
保護者 確認印または署名		年 月 日	年 月 日	年 月 日

名前	
----	--

※引き継ぎ事項については、職員でのみ引き継ぐこと。(各学部で運用を工夫する。変更可)

支援状況・引き継ぎ事項
○ ( ) 年 担任：○○ ○○
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水泳では、障がい者スポーツ大会で、金メダルを獲得。</li> <li>・心臓検診に関しては、良好。日常生活、運動に関しての配慮等は、現在は必要なし。</li> <li>・療育の見学を2回実施。学校及び寄宿舎において、時折、自らストレッチを行う。年度当初に見学を行うとよい。</li> <li>・急な予定変更等に対して、時折、情緒面が不安定になり、物にあたる等の荒っぽい場面が見られた。見通しの持ちやすさやていねいな説明が必要。</li> </ul>
○ ( ) 年 担任：△△ △△
<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
○ ( ) 年 担任：□□ □□
<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

(様式1) 個別の指導計画【高等学校】

平成 年度

2年 1組		氏名	宮崎 県太郎	担任名	〇〇〇〇
長期目標	学習面	学習したことを日常生活の場面で活用することができる。			
	生活・行動面	場面の状況や自分の立場をしっかりと把握できる。			
	対人面	あいさつがきちんとできる。相手の気持ちを考えながら自分の気持ちを伝えることができる。			
前期		短期目標	手立て・留意点（合理的配慮含む）		変容・評価
	学習面	・学習時に、より長く集中できる力をつける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉のみの説明ではなく、視覚的な情報を活用した教材を提示する。</li> <li>・できたことへの賞賛などで自信を持てるようにする。</li> </ul>		・活動内容を視覚的に提示したことで集中できる時間が長くなった。
	生活・行動面	・決められたルールを守り、落ち着いた学校生活を過ごす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉による適切なコミュニケーションができるよう、必要な言葉かけを行う。</li> <li>・イライラして自分が抑えられなくなる前にクールダウンのために別室へ移動する。</li> </ul>		・別室でクールダウンすることで落ち着いて取り組めることが多くなった。
	対人関係面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感謝の気持ちを言葉や行動で伝えることができる。</li> <li>・表情や態度から大よその相手の気持ちを推測できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングを行い、感謝の気持ちを言われて時の気持ちを体験させる。</li> </ul>		・ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた学習を行ったことで対人面のトラブルは少なくなった。

保護者チェック欄

個別の指導計画をもとにした目標・手だてチェックシート

日時：10月14日（金） 3校時		授業名：生単「ホワイトK.K.フレッシュ～遊戯室掃除をしよう」		記入者：			
児童 生徒名	年間目標	個別の指導計画 生単の目標		目標・手 だての 評価		記述欄	
Y.R	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友だちや教師と一緒に様々な経験や活動をする中で、人とのかかわりや自分の気持ちを表現し相手に伝える力を育てる。</li> <li>○ 日常生活に必要な基本的な生活習慣を身につける。</li> </ul>	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係の仕事をどの役割でも嫌がらずにできる。</li> <li>・自分の係の仕事が分かり、最後まで取り組むことができる。</li> <li>・友だちと協力して活動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を知り、時間いっぱい活動することができる。</li> <li>・活動の振り返りをし、きれいになったことに気付くことができる。</li> </ul>	A	A	継続指導
		手だて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事をするものの大切さを伝え、学校生活の中で、様々な係の役割を経験させる。</li> <li>・役割を果たせた時や友だちと協力することができた時は称賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真カードで何の仕事を担当するのかを示す。</li> <li>・学習の流れをカードで示し、全体の流れを把握させる。</li> <li>・タイムカードのスタンプを5つ集めたら、お楽しみ会参加チケットがもらえるシステムを取り入れることで、活動への意欲を高め、持続させる。</li> <li>・床拭きワイパーのシートが汚れていることを一緒に確認し、本人の頑張りを称賛する。</li> </ul>	○	○	教材の工夫
K.K	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友だちと一緒に様々な活動をする中で、人との関わり方や自分の気持ちをコントロールする力を育てる。</li> <li>○ 日常生活に必要な基本的な生活習慣を身につける。</li> <li>○ 自分のことは自分でやろうとし、自分でできることを増やす。</li> </ul>	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係の仕事をどの役割でも嫌がらずにできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を知り、時間いっぱい活動することができる。</li> <li>・活動の振り返りをし、きれいになったことに気付くことができる。</li> </ul>	A	A	継続指導
		手だて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活の中で、様々な係の役割を経験させる。</li> <li>・役割を果たせたときは、称賛し、自信を持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当の掃除箇所では、掃除の手順表・役割分担表を準備し、各自の役割を、明確に示す。</li> <li>・タイムカードのスタンプを5つ集めたら、お楽しみ解散かチケットがもらえるシステムを取り入れることで、活動への意欲を高め、持続させる。</li> </ul>	○	○	教材の工夫

【評価の記入】 目標の評価 : A達成できた Bほぼ達成できた C達成できなかった

手だての評価: ○手だては有効 △手だてが必要 ×手だてが有効でなかった

個別の指導計画をもとにした目標・手だてチェックシート

日時：9月12日(月) 2, 4校時	授業名：美術「展覧会に出品しよう (ちぎり絵作品)」	記入者：
-----------------------	-------------------------------	------

児童 生徒 名	年間目標	個別の指導計画 美術の目標		本時の目標	目標・手 だての評 価		記述欄
		目 標	手 だ て				
K.H 自立	○ 適度に体を動かす ことで体力をつける とともに、生活のリズ ムを整える。 ○ 教師や友達と関わり を楽しみ、コミュニ ケーション力の向 上を図る。	目 標	・ いろいろな 素材に触れな がら制作活動 を楽しむこと ができる。	・ テーマの線描きにの りを付けておいたも のに手を添えられな がら色紙をちぎり、貼 り付ける活動を通し て、素材の感触を楽し むことができる。	B	B	継続指導
		手 だ て	・ 感触を楽し ませる。	・ 手を添えて活動を促 す。 ・ 感覚を楽しむ様子 を見守る。	○	△	教材の工 夫
M.M 自立	○ 見通しをもって安 定した気持ちで学校 生活を送り、学習に落 ち着いて取り組むこ とができる。 ○ 集中して取り組め る活動時間を増やす ことができる。 ○ 友達や教師との関 わりを通して気持ち や簡単な単語を言葉 で伝えることができ る。	目 標	・ 苦手な課題 にも最後まで 取り組むこと ができる。	・ テーマの線描きに指 示されたところにの り付けした色紙を貼 る活動を通して、席に 着き落ち着いて制作 に取り組むことがで きる。	A	A	継続指導
		手 だ て	・ 得意な課題 や不得意な課 題の分量を考 慮しながら課 題の提供を行 う。	・ 具体的に指示を出 す。	○	○	

【評価の記入】 目標の評価 : A達成できた Bほぼ達成できた C達成できなかった

手だての評価：○・・・手だては有効 △・・・+αの手だてが必要 ×・・・手だてが有効でなかった

日 時：平成28年10月14日（金）3時間目  
場 所：遊戯室、児童玄関、遊戯室前廊下  
指導者：松元 鉄平（T1） 羽田久美子（T2）  
中武 祥子（T3） 西川 朝美（T4）  
木村 律子（T5） 東 加代（T6）  
渡辺理英子（T7） 児玉三千代（T8）

1 単元名 「ホワイト KK フレッシュ 遊戯室掃除をしよう」

2 目 標

- 掃除をすることの意味を知り、いろいろな掃除道具の使い方に慣れる。
- 自分の役割を理解し、どんな活動でもやり遂げようとする気持ちを養う。
- みんなと力を合わせることの良さに気付く。

3 指導観

- 本単元は「ホワイト KK フレッシュ」と称し、遊戯室及び遊戯室周辺の掃除を週に1回行う年間を通しての大単元である。本単元では、「窓拭き雑巾」、「モップ」、「掃除機」、「粘着クリーナー」「床拭きワイパー」などの身近な掃除用具を使い、掃除をすることの意味を知ること、自分の役割を意識し、やり遂げることの大切さやみんなと力を合わせることの良さに気付かせ、児童がより主体的に活動することをねらいとしている。また、本校の研究主題である『「共に生きる力」を育む「あたらしい指導と支援」』や中学部の作業学習へ結び付くものである。

本単元の活動内容は、「出勤を示すカードの張り替え」、「あいさつ」、「掃除場所の確認」、「社歌を歌う」、「掃除」、「片付け」、「タイムカードの押印」、「おわりの会」である。主な活動である「掃除」は「窓拭き」、「モップ掛け」、「マット掃除」、「床拭き」のいずれか1つを行っている。

- 本学年の児童は、男子6名、女子7名、計13名（1・2組、通常学級7名、3・4組、重複障がい学級6名）で構成されている。本学年の児童は、音楽、校外学習、誕生会、お楽しみ会など一緒に学習することが多い。とても明るく、元気のよい学年で、学習活動に積極的に取り組むことができるが、活動内容によっては消極的になることもある。また、小学部では本学年の児童数が一番多く、知的障がいの状態や肢体不自由の状態等、実態が様々な学年でもある。多くの児童は、言葉だけの指示理解が難しく、視覚的支援を必要とする。

児童は、これまでに学級の教室掃除を行っている。通常学級は、今年度から週に1回の食堂掃除も行っている。小学部の高学年として、「ホワイト KK フレッシュ」に半年間、取り組んでおり、掃除用具の使い方に慣れてきつつある。また、「ホワイト KK フレッシュ」の1時間の流れに見通しがもてるようになった児童もいる。

- そこで本単元の指導にあたっては、イラストや写真等の視覚的教材を用いて活動内容、児童の役割、学習の流れの確認を行い、年間を通して、「ホワイト KK フレッシュ」の社歌を歌い、気持ちを盛り上げてから活動に入るようにしたい。また、タイムカードにスタンプの欄を設け、児童の頑張りがすぐに分かるようにすることや、スタンプが5つ以上になると「おたのしみチケット」がもらえることで児童の意欲につなげたい。

本時の指導にあたっては、活動の流れをホワイトボードに掲示し、全体の流れの確認や各自の役割を伝え、グループごとに集め、本時の活動の確認をして、掃除に取り組ませたい。また、前時までのタイムカードのスタンプの数に触れ、児童の気持ちを盛り上げたり、称賛の言葉掛けをしたりすることで、児童の気持ちを高め続け、最後まで楽しく主体的に取り組ませたい。「おわりの会」では、児童が認められる場を設定し、きれいになったことに気付かせるとともに、仕事を頑張った達成感と成就感を味わわせたい。

#### 4 指導計画

- ホワイト KK フレッシュ 1学期…11時間
- ホワイト KK フレッシュ 2学期…13時間（本時：6／13）
- ホワイト KK フレッシュ 3学期…8時間

#### 5 本時の学習

##### (1) 本時の目標

- 自分の掃除道具の使い方に慣れる。
- 自分の役割を知り、時間いっぱい取り組むことができる。
- 活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができる。

##### (2) 個人の実態及び目標

氏名	学級	役割	実 態	個 人 目 標	個別の指導計画との関連
A 女	2	窓拭き雑巾	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容を理解して意欲的に取り組むことができるが、周りのことが気になる、持ち場を離れてしまうことがある。</li> <li>・動きが活発で、衝動的に走り出すことがあり、衝突や転倒の恐れがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を知り、時間いっぱい取り組むことができる。</li> <li>・拭き残しのないように、丁寧に窓拭きを行うことができる。</li> </ul>	日生⑨ 日生⑩ 生単① 生単②
B 男	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除が好きで、意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・振り返りの時間に、教師や友だちの話を正しい姿勢で聞くことができないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拭き残しのないように、丁寧に窓拭きを行うことができる。</li> <li>・活動の振り返りをして、自分や友だちの頑張ったところに気づくことができる。</li> </ul>	日生⑦ 日生⑧ 生単① 生単②
C 男	3	モップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容に見通しをもって、取り組むことができる。</li> <li>・活動中に集中力に欠けることがある。</li> <li>・掃除用具を適切に使えないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間いっぱい取り組むことができる。</li> <li>・モップを適切に使って、拭き掃除を行うことができる。</li> </ul>	自立② 自立③ 自立④ 生単②
D 男	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容を理解してきた。</li> <li>・活動中に廊下に座り込むことがある。</li> <li>・活動中に落ち着かなくなり、掃除用具を適切に使えないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座り込むことなく、時間いっぱい取り組むことができる。</li> <li>・モップを丁寧に扱うことができる。</li> </ul>	自立① 自立③ 自立⑩
E 女	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子使用。</li> <li>・背後支援での歩行で活動に参加することもある。</li> <li>・掃除は好きではなく、情緒が不安定になることがあるが、モップで遊ぶことは好きである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて取り組むことができる。</li> <li>・モップをしっかり持つことができる</li> </ul>	自立③ 自立④ 自立⑤ 自立⑥ 生単②
F 男	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子使用。</li> <li>・不安定ながらも独歩での作業が可能な場合もある。</li> <li>・掃除することの理解は難しい。</li> <li>・口に入れて確かめたり指をなめたりして唾液が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モップをしっかり持つことができる。</li> <li>・時間いっぱい掃除することができる。</li> </ul>	自立⑤ 自立⑦ 自立⑩	

G	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除機を操作することはできるが、マット以外の場所も掃除しようとする。</li> <li>・活動内容は理解できており、積極的に取り組むことができる。</li> <li>・気分が乗らない時や、活動に見通しがもてない時は、最後まで集中できないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・枠を意識して、マットの掃除をすることができる。</li> <li>・自分の役割を知り、時間いっぱい取り組むことができる。</li> <li>・活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができる。</li> </ul>	日生⑩ 生単① 自活①
H	1	掃除機	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除機を操作することはできるが、同じ場所ばかり動かしていたり、マットからはみ出したりすることがある。</li> <li>・活動内容は理解できており、どの活動も意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・活動に見通しがもてれば、時間いっぱい活動することができるが、何をしたいかが分からないと、その場から離れることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・枠を意識して、マットの掃除をすることができる。</li> <li>・自分の役割を知り、時間いっぱい取り組むことができる。</li> <li>・活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができる。</li> </ul>	生単③ 自活④
I	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子使用。</li> <li>・掃除が好きで、意欲的に取り組むことができるが、同じ場所ばかり動かしていたり、マットからはみ出したりすることがある。</li> <li>・活動内容は理解できるが、自主的に次の活動に取り組むことが難しく、言葉掛けが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除機をしっかり握って、枠を意識しながら動かすことができる。</li> <li>・自分の役割を知り、時間いっぱい取り組むことができる。</li> <li>・活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができる。</li> </ul>	日生⑧ 日生⑨ 体育① 生単①
J	1	床拭きワイパー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除は好きではないが、床拭きワイパーには興味があり使おうとする。</li> <li>・活動内容は理解しているが集中力が続かず、言葉掛けが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を知り、時間いっぱい活動することができる。</li> <li>・目印を意識して床を掃除することができる。</li> <li>・活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができる。</li> </ul>	生単② 生単③ 日生⑧
K	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容を理解して活動に取り組むことができるが、気が散りやすく時間いっぱい活動することができないことがある。</li> <li>・同じ場所を掃除したり、まっすぐ床を掃除することができないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間いっぱい活動することができる。</li> <li>・目印を意識して床を掃除することができる。</li> <li>・活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができる。</li> </ul>	生単② 生単③ 日生⑦
L	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除は好きで、意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・活動内容を理解しており、終わっていない場所を見つけて掃除することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間いっぱい活動することができる。</li> <li>・目印を意識して床を掃除することができる。</li> <li>・活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができる。</li> </ul>	日生⑧ 生単① 生単②
M	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子使用。</li> <li>・床拭きワイパーを意識し、自分から手を添える様子が見られるようになってきた。</li> <li>・掃除することの理解は難しいが、言葉掛けで、落ち着いて活動に参加できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床拭きワイパーをしっかり持つことができる。</li> <li>・教師や友だちとのやりとりを楽しみながら、時間いっぱい掃除することができる。</li> </ul>	自立③ 自立⑤ 自立⑦ 生単④

(3) 指導過程

時間	学習活動及び内容	個人別学習活動及び教師の支援					
		A	B	C	D	E	F
2	1 遊戯室に移動し、クラスごとに座って待つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出勤を示すカードを張り替え、座って待つ。</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードの張り替えをするように、言葉掛けをする。(T 4)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードの張り替えをするように、言葉掛けをする。(T 1)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードに視線を向けさせて手を持って一緒にカードを裏返す。(以下T 6支援)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードに視線を向けさせて手を持って一緒にカードを裏返す。(以下T 8支援)</li> </ul>
1	2 はじまりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじまりのあいさつをする。</li> <li>・I児にあいさつをするように指示をし、あわせてあいさつをさせる。(T 1)</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい姿勢をさせ、前を向くように言葉掛けをする。(T 4)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい姿勢をさせ、前を向くように言葉掛けをする。(T 5)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつすることを言葉掛けをしながら、手を持って一緒にあいさつの動作をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつすることを言葉掛けをしながら、手を持って一緒にあいさつの動作をする。</li> </ul>
3	3 学習の流れを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードに注目し、学習の流れを知る。</li> </ul>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうじのかくにん</li> <li>・しゃか</li> <li>・そうじ</li> <li>・タイムカード</li> <li>・あいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前を向いて、話を聞くように言葉掛けをする。(T 4)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前を向いて、話を聞くように言葉掛けをする。(T 1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座位が崩れていたら言葉掛けをする。(T 1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見ていない時はホワイトボードを見るように言葉掛けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見ていない時はホワイトボードを見るように言葉掛けをする。</li> </ul>
4	4 「そうじのかくにん」を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割の確認を行い、グループごとにまとまって座る。</li> <li>・タイムカードを見る。</li> <li>・移動する場所を指示し、グループごとに座って待つように指示をする。(T 1)</li> <li>・ハンコの数に触れ、児童の意欲を高める。</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示された場所に行き、並んで座るように言葉掛けをする。(T 4)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示された場所に行き、並んで座るように言葉掛けをする。(T 1)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除道具を確認させて、車椅子を押して場所へ移動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除道具を確認させて、車椅子を押して場所へ移動する。</li> </ul>
2	5 「しゃか」を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲に合わせて、歌詞を見ながら「しゃか」を歌う。</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に歌って気持ちを盛り上げる。(T 4)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・立つように言葉掛けをし、一緒に歌って気持ちを盛り上げる。(T 1)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に歌って気持ちを盛り上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に歌って気持ちを盛り上げる。</li> </ul>
20	6 「そうじ」をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除場所へ移動をし、「そうじ」をする。</li> </ul>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除機</li> <li>・モップ</li> <li>・窓拭き</li> <li>・床拭きワイパー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の担当する窓を確認する。</li> <li>・スプレーをかける回数を確認し、水を多くかけないように言葉掛けをする。(T 4)</li> <li>・拭き残しのないように、丁寧に活動させるために称賛を適宜、行う。(T 4)</li> <li>・落ち着いて丁寧に活動させるため称賛を適宜、行う。(T 4)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下へ移動し、モップ拭きをする。</li> <li>・3往復することを確認する。</li> <li>・両手でモップを持って活動させる。</li> <li>・途中で止まっている場合には、言葉掛けをする。</li> <li>・称賛を適宜行う。</li> <li>・回数を確認をし、見通しをもたせる。</li> <li>・雑巾の汚れを見せ、掃除の達成感をもたせる。(T 1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モップを適切に使うように言葉掛けする。</li> <li>・落ち着いて活動させるため称賛を適宜行う。</li> <li>・回数を確認をし、見通しをもたせる。</li> <li>・雑巾の汚れを見せ、掃除の達成感をもたせる。(T 1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子を押して担当場所へ移動し、道具や場所、回数の確認をする言葉掛けをする。</li> <li>・背後支援で支えながら、道具を持たせて活動させる。</li> <li>・1往復ごとに休憩をとらせて、頑張っていることを称賛し、頑張っていることを実感させ、やる気につなげる。</li> <li>・往復回数カードをチェックさせて見通しをもたせる。</li> <li>・雑巾の汚れを見せ、掃除の達成感をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子を押して担当場所へ移動し、道具や場所、回数の確認をする言葉掛けをする。</li> <li>・児童の動きを大切にしながら、できるだけ児童一人でモップを持つように見守る。</li> <li>・上手に持っていられたら称賛の言葉掛けをして意欲や持続力につなげる。</li> <li>・往復回数カードをチェックさせて見通しをもたせる。</li> <li>・雑巾の汚れを見せ、掃除の達成感をもたせる。</li> </ul>
3	7 「タイムカード」のスタンプを押してもらう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付けをし、遊戯室に移動後、「タイムカード」にスタンプを押してもらう。</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張ったことを振り返り、スタンプを押す。(T 4)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張ったことを振り返り、スタンプを押す。(T 1)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を振り返り、頑張った度合いをイラストカードで示し、実感させて、スタンプを押す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を振り返り、頑張った度合いをイラストカードで示し、実感させて、スタンプを押す。</li> </ul>
5							

	<p>8 おわりの会をする。</p>	<p>・おわりの会の中で本時の振り返りを行い、おわりのあいさつをする。</p> <p>・児童を認める場を設定し、担当教師に本時の頑張りを発表してもらおう。</p>	<p>・話をする人の方を向かせて、聞かせる。</p> <p>・一緒におわりのあいさつをする。(T 4)</p>	<p>・話をする人の方を向かせて、聞かせる。</p> <p>・正しい姿勢で参加させる。</p> <p>・一緒におわりのあいさつをする。(T 1)</p>	<p>静かに話を聞いて活動を振り返る</p> <p>・話をする人の方を向かせて、聞かせる。</p> <p>・一緒におわりのあいさつをする。</p>	<p>・話をする人の方を向かせて、聞かせる。</p> <p>・一緒におわりのあいさつをする。</p>	
--	--------------------	---	---	--	---	--	--

(3) 指導過程

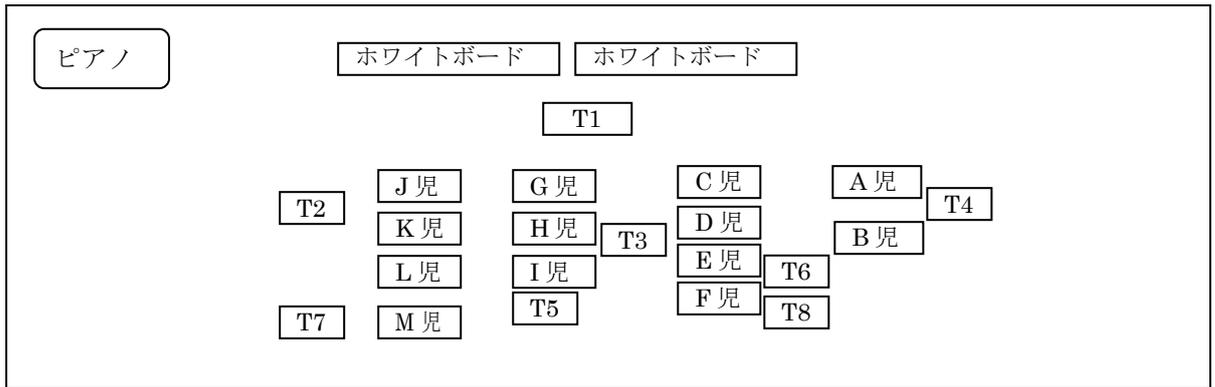
個人別学習活動及び教師の支援							資料準備
G	H	I	J	K	L	M	
<p>・出勤を示すカードを張り替え、座って待つ。</p>							<p>・ホワイトボード ・出勤を示すカード</p>
<p>・自分のカードだけを張り替えるよう、言葉掛けをする。(T3)</p>	<p>・カードの張り替えをするように、言葉掛けをする。(T3)</p>	<p>・カードの張り替えをするように、言葉掛けをする。(T5)</p>	<p>・カードの張り替えをするように、言葉掛けをする。(T2)</p>		<p>・カードに視線を向けさせて手を持って一緒にカードを裏返す。(以下T7支援)</p>		
<p>・はじまりのあいさつをする。</p>							
<p>・I児にあいさつをするように指示をし、あわせてあいさつをさせる。(T1)</p>							
<p>・正しい姿勢をさせ、前を向くように言葉掛けをする。(T3)</p>		<p>・正しい姿勢をさせ、大きな声であいさつをするように言葉掛けをする。(T5)</p>	<p>・正しい姿勢で前を向いているか確認をする。(T2)</p>			<p>・あいさつすることを言葉掛けをしながら、手を持って一緒にあいさつの動作をする。</p>	
<p>・ホワイトボードに注目し、学習の流れの確認を知る。</p>							
<p>・姿勢が崩れているときは、座って話を聞くよう言葉掛けをする。(T3)</p>		<p>・見ていないときは、ホワイトボードを見るよう言葉掛けをする。(T5)</p>	<p>・前を向いているか確認をする。(T2)</p>	<p>・前を向いて話を聞くように言葉掛けをする。(T2)</p>	<p>・前を向いているか確認をする。(T2)</p>	<p>・見ていない時はホワイトボードを見るように言葉掛けをする。</p>	<p>・学習の流れの黒板</p>
<p>・役割の確認を行い、グループごとにまとまって座る。 ・タイムカードを見る。</p>							
<p>・移動する場所を指示し、グループごとに座って待つように指示をする。(T1) ・ハンコの数に触れ、児童の意欲を高める。</p>							
<p>・掃除道具の写真を見せ、並んだら座るように言葉掛けをする。(T3)</p>		<p>・掃除道具を確認させて、車椅子で場所へ移動するように言葉掛けをする。(T5)</p>	<p>・掃除道具の写真を見せ、並んで座るように言葉掛けをする。(T2)</p>			<p>・掃除道具を確認させて、車椅子を押して場所へ移動する。</p>	
<p>・曲に合わせて、歌詞を見ながら「しゃか」を歌う。</p>							
<p>・一緒に歌って気持ちを盛り上げる。(T3)(T6)</p>			<p>・一緒に歌って気持ちを盛り上げる。(T2)</p>		<p>・一緒に歌って気持ちを盛り上げる。</p>		<p>・CD</p>
<p>・掃除場所に移動をし、「そうじ」をする。</p>							
<p>・掃除をする手順を確認する。 ・マットを枠で囲み、枠の中を掃除することを確認する。(T3)</p>							
<p>・枠以外を掃除している時は、枠の中を掃除するよう言葉掛けをする。(T3)</p>	<p>・次の活動が分らない時は、一緒に作業手順表を確認する。(T3)</p>	<p>・次の活動に移れない時は、一緒に作業手順表を確認する。(T5)</p>	<p>・自分の場所とペットボトルの目印に向かってまっすぐに進むことを確認する。 ・適宜、称賛をし、意欲を高める。(T2)</p>			<p>・車椅子を押して担当場所へ移動し、道具や場所の確認をする言葉掛けをする。 ・手を添えながら一緒に掃除道具の確認と準備を行い、道具操作への意識を高める。 ・背後及び側方支援をしながら、道具を持たせて活動させる。 ・言葉掛けと称賛を行い、頑張っていることを実感させ、やる気につなげる。</p>	<p>・掃除機 ・マットの枠 ・ゴミ箱 ・役割分担表 ・マット掃除手順表 ・モップ ・バケツ ・タイムタイマー ・往復回数カード ・手袋雑巾 ・霧吹き ・床拭きワイパー ・ペットボトル</p>
<p>・頑張っているところを称賛し、意欲を高める。(T3)(T5) ・掃除の後、汚れたシートを確認し、自分たちの頑張りにより、マットがきれいになったことを気付かせる。(T3) ・役割分担表で、片付ける道具を確認する。(T3)</p>							
		<p>・掃除道具を持ったら、車椅子を押して移動する(T5)</p>	<p>・床拭きワイパーにシートをつけるのを見守る。 ・慌てず、丁寧に掃除をするように言葉掛けをする。(T2)</p>		<p>・床拭きワイパーにシートを正しくつけているか確認する。 ・掃除道具を適切に使うように言葉掛けをする。(T2)</p>	<p>・床拭きワイパーにシートをつけるのを見守る。 ・目印を意識するように言葉掛けをする。(T2)</p>	
<p>・途中で汚れたシートを確認し、頑張っていることを称賛する。 ・汚れたシートは裏返してつけるように言葉掛けをする。(T2)</p>							
<p>・片付けをし、遊戯室に移動後、「タイムカード」にスタンプを押してもらおう。</p>							
<p>・頑張ったことを振り返り、スタンプを押す。(T3)</p>			<p>・頑張ったことを振り返り、スタンプを押す。(T5)</p>		<p>・頑張ったことを振り返り、スタンプを押す。(T2)</p>		<p>・タイムカード</p>
<p>・おわりの会の中で本時の振り返りを行い、おわりのあいさつをする。</p>							
<p>・児童を認める場を設定し、担当教師に本時の頑張りを発表してもらおう。</p>							
<p>・話をする人の方を向いて話を聞くよう言葉掛けをする。 ・一緒におわりのあいさつをする。(T3)</p>	<p>・話をする人の方を向いて話を聞くよう言葉掛けをする。 ・一緒におわりのあいさつをする。(T5)</p>		<p>・話をする人の方を向いて話を聞くように言葉掛けをする。 ・一緒におわりのあいさつをする。(T2)</p>			<p>・話をする人の方を向かせて、聞かせる。 ・一緒におわりのあいさつをする。</p>	

## (4) 評価

評価の基準 ( ◎できた ○一部支援を受けてできた △できなかった)

氏名	学級	役割	評価の観点	評価	特記事項
A 女	2	窓拭き雑巾	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割を知り、時間いっぱい取り組むことができたか。</li> <li>拭き残しのないように丁寧に窓拭きを行うことができたか。</li> </ul>		
B 男	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>拭き残しのないように丁寧に窓拭きを行うことができたか。</li> <li>活動の振り返りをして、自分や友達の頑張ったところに気づくことができたか。</li> </ul>		
C 男	3	モップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間いっぱい取り組むことができたか。</li> <li>掃除用具を適切に使って、拭き掃除を行うことができたか。</li> </ul>		
D 男	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>座り込むことなく、時間いっぱい取り組むことができたか。</li> <li>掃除用具を丁寧に扱うことができたか。</li> </ul>		
E 女	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いて取り組むことができたか。</li> <li>モップをしっかり持つことができたか。</li> </ul>		
F 男	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>モップをしっかり持つことができたか。</li> <li>時間いっぱい掃除することができたか。</li> </ul>		
G 女	1	掃除機	<ul style="list-style-type: none"> <li>枠を意識して、マットの掃除をすることができたか。</li> <li>自分の役割を知り、時間いっぱい取り組むことができたか。</li> <li>活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができたか。</li> </ul>		
H 男	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>枠を意識して、マットの掃除をすることができたか。</li> <li>自分の役割を知り、時間いっぱい取り組むことができたか。</li> <li>活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができたか。</li> </ul>		
I 女	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>掃除機をしっかり握って、枠を意識しながら動かすことができたか。</li> <li>自分の役割を知り、時間いっぱい取り組むことができたか。</li> <li>活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができたか。</li> </ul>		
J 男	1	床拭きワイパー	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割を知り、時間いっぱい活動することができたか。</li> <li>目印を意識して床を掃除することができたか。</li> <li>活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができたか。</li> </ul>		
K 女	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>時間いっぱい活動することができたか。</li> <li>目印を意識して床を掃除することができたか。</li> <li>活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができたか。</li> </ul>		
L 女	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>時間いっぱい活動することができたか。</li> <li>目印を意識して床を掃除することができたか。</li> <li>活動の振り返りをして、きれいになったことに気付くことができたか。</li> </ul>		
M 女	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>床拭きワイパーをしっかり持つことができたか。</li> <li>教師や友だちとのやりとりを楽しみながら、時間いっぱい掃除することができたか。</li> </ul>		

(5) 座席配置



みやぎ中央支援学校小学部 個別の指導計画

I 個人プロフィール

記入者名 ( )

年度	学年・組	性別	児童名 (ふりがな)	障がい名・病名 (診断時期・機関)
平成28年度	〇年 〇組			
諸検査等 (診断時期・機関)				

II 指導計画と評価

<b>年間目標</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと一緒に様々な活動をする中で、人とのかかわり方や自分の気持ちをコントロールする力を育てる。</li> <li>・日常生活に必要な基本的な生活習慣を身につける。</li> <li>・自分のことは自分でやろうとし、自分でできることを増やす。</li> </ul>				
項目	4月当初の実態	目標	評価			備考
			1期	2期	3期	
日常生活の指導	排泄 (トイレ)	・トイレに行くことを身振りや言葉で伝え、一人で行くことができる。 拭き取りが不十分な時がある。 ・情緒の状態によっては、なかなか出てこないことがある。 ・カギをかけないことがある。	①一連の動きをスムーズに終え、出てくることができる。	2	3	
			②カギをかけて排泄することができる。	2	2	
	食事	・食べる時によそ見をしていて食事が止まっていることがある。	①注意を食事に向け、みんなと同じ頃に食べ終えることができる。	2	3	
	衣服の着脱	・小さいボタンやきついボタンだと、はめようとしにくいことがある。 ・着脱はほぼできるが、上下とも脱いで下着姿になることがある。 ・着替えの途中でカーテンから出てくることがある。	①小さなボタンやきついボタンも自分で挑戦することができる。	2	3	
			②上を脱いだら上を着る、下を脱いだら下を履くという順序で着替えることができる。	2	2	
健康・安全	・周りの状況を見ずにいきなり動き、友だちとぶつかりそうになることがある。 ・運動の持続が難しく体重増加傾向にある。	①周りを見て落ち着いて動こうとすることができる。	2	2		
		②歩くことを楽しみながら体力づくりに取り組むことができる。	2	3		
清掃	・ぞうきんをしぼろうとするが、固くしぼることができる。	①ぞうきんを固くしぼることができる。	2	2		

		い。 ・教室のぞうきんがけをすることができる。 ・すぐにぞうきんを洗いたがり、水浸しにしてしまうことがある。	②掃除道具を正しく使うことができる。	2	2		
			③時間いっぱい掃除に取り組むことができる。	2	2		
自立活動 1 健康の保持 2 心理的な安定 3 人間関係の形成 4 環境の把握 5 身体の動き 6 コミュニケーション		・いろいろな場面で気分が乗らず、活動に取り組めないことがある。 ・友達が好きで自分から積極的に関わることができるが、相手が嫌がっていてもやめないことがある。	①自分の意志に反することでも少し我慢して応じる態度を身につけることができる。 2- (2)	2	2		
			②相手の「やめて」の身振りや言葉でやめようとするすることができる。 3- (1)	2	3		
教科・生単	生単	・簡単なきまりやルールを守り、活動することができるが、気分によってはできないこともある。	①係りの仕事をどの役割でも、嫌がらずにできる。	2	3		
			②行事や校外学習のことを知り、友だちと楽しく参加することができる。	2	3		
			③気分が左右されずに、簡単なきまりやルールを守ることができる。	2	2		
	国語	・名を自分で書くことができる。姓をなぞり書きすることができる。 ・ひらがなが書けるようになってきた。 ・ひらがなを読むことができる。	①自分の名前を書くことができる。	2	3		
			②お手本や50音表を見て書くことができる。	2	3		
			③話をする人の方を見て、最後まで話しを聞くことができる。	2	2		
			④ひらがなで書いてあることばを読むことができる。	2	3		
			⑤息を吹く練習や発音練習をすることができる。	2	2		
	算数	・言われた数字を1～10の数の中から見つけることができる。	①数字を正しく読むことができる。	2	2		
			②写真と実物のお金のマッチングができる。	2	3		

	音楽	・知っている曲を歌おうとしたり、リズムに合わせて身体を揺らしたりできる。	①音楽に合わせて楽器を鳴らしたり、止めたりすることができる。	2	2		
	図画工作	・制作活動は好きで意欲的に取り組むことができる。 ・周りが気になり、すぐによそ見をしてしまう。	①いろいろな材料や道具を使って作品を作ることができる。	2	3		
			②見たことや感じたことを絵に描いたりすることができる。	2	2		
	体育	・走ったり、体を動かすことは好きだが持久力がない。	①みんなと同じように集団行動をとることができる。	2	2		
			②途中で座り込まずに活動に参加することができる。	2	3		

※ この様式は平成21年3月改訂版である。

※ より詳しい資料や諸検査結果を入れる必要があれば別紙で添付する。

※ 評価

1…目標を再設定する必要がある

2…引き続き取り組む必要がある

3…ある程度達成した

4…目標を達成した

## 中学部2年 教科別の指導「美術」 学習指導案

日 時 平成26年 9月29日(月曜日) 2・4校時 9:40~10:25 11:20~12:05  
10月 6日(月曜日) 1・2校時 8:45~9:35 10:30~11:35  
場 所 A支援学校 美術室  
指導者 T1 上埜芳信 T2 T3 T4 T5 T6 T7

題材名 スチロール版画(文化祭作品作り)

### 題材設定の理由

本生徒は、2年生全員である。美術の授業での実態は、絵の具を自分で扱うことができる生徒から筆を握ることも困難な生徒まで幅が広い。しかし、授業態度は1年時からの積み重ねがあり場所や授業の流れに慣れているため、制作への取り組みがとても良く集中した活動ができる。テーマを設定した授業も、美術に限らず生単等で多く行われているため、ほとんどの生徒が説明を理解すればテーマに合ったアイデアを自分なりに出すことができ、活動のスピードも速い。活動のペースが遅い生徒との時間差の調節に工夫が必要である。作品を作り上げ展覧会に出品する経験が多い点、中学部生という点を考慮し、ある程度技術を要し自主活動の積み重ねで個性が表れやすい教材が望ましいと思われる。

本教材は、みや央祭に出品することを目標にし、凸画技法を使ったスチロール版画作りを行いコルクで額縁を付けて仕上げる。テーマは具体的なものをイメージしやすいように「私の好きなもの」とする。版板は、スチロール版をペン先などでひっかき描画することで溝をつくる簡単なもので、クッキー型を押し付けるなどの応用もできる。スチロール版をハガキ程度の大きさに設定し、版板を短時間で制作できるようにし、刷りの時間を多くとることで今回はいろいろな色を楽しみながら刷ることに焦点を定める。また、アメリカンポップアートの巨匠ウォーホルの作品を参考作品に、いろいろな絵の具や色画用紙を自由に使い、刷った作品を4枚並べて貼ることで色彩豊かな版画作品づくりを行うことができる。制作が速い生徒は多くの枚数を刷りその中から気に入った4枚を選ぶことで、時間がかかる生徒との調整をすることができる。額については、前もってコルクに色を塗って切っておいたものをはさみで切り、両面テープで作品の周囲に貼って飾ることによって展示する作品として完成したことを意識付けることができる。

本指導は、生徒の実態に合わせてⅠ(重度)Ⅱ(中度)Ⅲ(軽度)3種類の内容を設定し、できる限り自主的な活動を引き出せるように支援を行う。Ⅰの内容は、生徒の実態に合ったように版板作りをひもで引っ張ることで痕跡が表れるようにし、活動が困難な生徒でも自分なりの造形の表出を促し指導者と一緒に作り上げることで作品作りを体験させる。Ⅱの内容は、描画が難しい生徒にスチロールにクッキー型を押し付けることで簡単に版板ができるようにし、刷りでいろいろな絵の具や色画用紙を試していくことを支援しながら、楽しみながら作品に作り上げる方向に向かわせる。Ⅲの内容は、テーマに沿った描画を行うことで版板を作り、絵具や画用紙の色彩に注目しながら主体的に創作活動を行う。今回ほとんどの生徒はⅢで行うが、難しいようであればⅡを試すなど、当日の生徒の様子でより生徒が活動しやすいように支援を行う。コルク額は、台紙に作品を4枚取り付けた後、縁にはりつける。基本的には正方形のチップに切って貼り付けるのだが、生徒が別な模様を作りたいなど工夫が見られるときは自主的な活動を促す。作品の完成の見極めについては、版

画作品なので版板ができる場面と刷る場面、額等で飾る場面で、生徒にも仕上げる場面を認識しやすいと思われる。版板制作時に失敗と感じているような時にはスチロールの裏面を使わせ、刷りがかすれているときは別の色での二度刷りを促すなど、支援を行いながら生徒の意思を尊重したい。また、鑑賞しみんなで完成を喜び合い、展覧会に出品することで作品を作り上げたことの喜びを味わせたい。

#### 題材の目標

- ・ 版面制作により作り上げる能力を培い、色彩への豊かな情操を養う。

#### 授業計画（4時間）

1-2 限目 版画板の制作と刷り

3-4 限目 額作りと鑑賞

課	組	名前	性別	実態・留意点	内容	担当
A			女	はさみや絵の具を使うことができる。テーマを意識した描画活動ができる。授業は、説明を聞いて集中的に取り組んでいる。	Ⅲ	T2
B			男	はさみや絵の具を上手に使うことができる。テーマを意識した描画活動ができるが、説明を自分なりに解釈することがある。制作活動が好きで、集中して取り組むことができる。こだわりが強く作業が止まることがある。	Ⅲ	T2
C			女	はさみや絵の具を使うことができる。会話をしながら、テーマを意識した描画活動ができる。自分で考えて創作することは難しいが、手本を見ながら丁寧に作品に仕上げることができる。	Ⅲ	T2
D			男	はさみや絵の具を使うことができる。テーマを意識した描画活動ができる。制作活動が好きで、集中して取り組むことができる。	Ⅲ	T2
E			男	はさみや絵の具を使うことができる。テーマを意識した描画活動ができる。得意なキャラクターの絵を上手に描くことが好きで、細かい描写ができる。楽しんで作品作りに取り組める。	Ⅲ	T2
F			男	はさみや絵の具を使うことができる。テーマを意識した描画活動ができる。自分なりのイメージをもって楽しみながら表現する。	Ⅲ	T8
G			男	はさみや絵の具を使うことができる。テーマを意識した描画活動ができる。自分の思いのままに作りたいという気持ちが強く、遊びになりがちである。なかなか授業の流れに乗れないことがあるが、納得をすると丁寧な制作ができる。	Ⅲ	T8
H			男	はさみや絵の具を使うことができる。テーマを意識した描画活動ができる。自分から積極的に描いたり作ったりすることは少ないが、促すと取り組むことができる。好きなキャラクター（ドラえもん）にこだわりがあり色分けをしたりできるが、他の絵にはなかなか興味を示さない。	Ⅲ	T8
I			男	はさみや絵の具を使うことができる。テーマを意識した描画活動ができる。造形活動は好きで進んで取り組むが、一通りの流れが終わると止めてしまう。細部を意識して塗ったり貼ったりすることが難しい。魚の絵がうまい。	Ⅲ	T8
J			男	はさみや絵の具を上手に使うことができる。テーマを意識した描画活動ができる。造形活動が好きで、友達のやり方を取り入れて作ろうとすることもある。	Ⅲ	T8
K			男	はさみや絵の具を使うことができる。テーマを意識した描画活動ができる。造形活動が好きで、自主的に楽しんで取り組むことができる。制作は丁寧に行うが支持された工程でやろうとしないことがある。	Ⅲ	T3
L			男	はさみや絵の具を使うことができる。テーマを意識した描画活動ができる。造形活動が好きで楽しみながら取り組むことができる。好	Ⅲ	T3

				きな色や使う材料に偏りが見られる。		
M			女	はさみや絵の具を使うことができる。自分から考えて作ることは難しいが、アドバイスをもらいながら意欲的に取り組むことができる。	Ⅲ	T3
N			女	はさみや絵の具を使うことができる。自分のイメージを持ち、作りたいことを自分で決めて取り組むことができる。友達が気になって片づけが中断することがある。	Ⅲ	T4
O			男	はさみや絵の具を使うことができる。テーマを意識した描画活動ができる。造形活動が好きで、会話をしながら楽しみながら取り組み楽しむことができる。	Ⅲ	T4
P			男	はさみや絵の具を使うことができる。道具や材料を大胆に使って制作する。周囲の動きに合わせて行動する。	Ⅲ	T5
Q			男	活動に集中する。準備・片付け時に離席がみられる。描画はできるが小さく描く	Ⅲ	T5
R			女	両手の指先を使って紙や粘土をちぎったり貼ったりする。描画は難しいが、手を動かし時間いっぱい活動できる。気持ちが不安定になることがある。	Ⅱ	T6
S			女	指や手を使っての一人での活動は難しいが、教師と一緒に参加できる。筆やローラーでの絵の具を塗る作業は支援が必要であるが、引く力を利用した造形活動は可能である。	I	T7

#### 個別の目標

内容	目標	児童記号
I	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分でひもをひっぱる、叩く、ローラーで色を塗るなどして制作させる。</li> <li>支援をしながら額を作り作品を完成させ、作品に注目させる。</li> </ul>	R
II	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の力でクッキー型を選び押しつけ版板を作り、筆を動かし色を塗りバレンで刷りを行わせる。</li> <li>コルクを貼る位置などを示す支援をしながら額を完成させ、鑑賞させる。</li> </ul>	S
III	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の好きなもの」をテーマに自由に描画し版板を作り、主体的にいろいろな色を選ばせ刷らせる。</li> <li>コルクを自分で工夫しながら切り貼りし完成させ、鑑賞させる。</li> </ul>	A B C D E F G H I J K L M N O P Q

#### 準備

用具：バレン、筆、容器、新聞紙

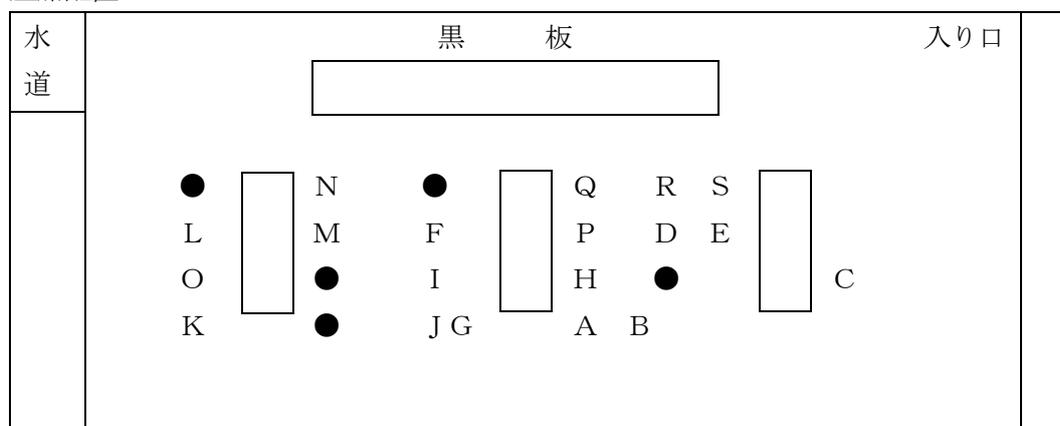
材料：水彩絵の具、スチロール版、ひっかくもの（フォーク等）、おしつけるもの（クッキー型等）

色画用紙、コルクチップ、ボールペン

評価

	評 価	児童
I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でひもをひっぱる、叩く、ローラーで色を塗るなどして制作できたか。</li> <li>・支援を受けながら額を作り作品を完成し、作品に注目することができたか。</li> </ul>	R
II	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力でクッキー型を選び、版板を作り、筆やパレンを使い制作できたか。</li> <li>・コルクを貼ることを楽しみながら額を完成し、鑑賞することができたか。</li> </ul>	S
III	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の好きなもの」をテーマに自由に描画し版板を作り、主体的にいろいろな色を選び刷ることができたか。</li> <li>・コルクを自分で工夫して切り貼りし完成させ、鑑賞することができたか。</li> </ul>	A B C D E F G H I J K L M N O P Q

座席配置



日にち	時間	学習内容	指導上の留意点		
			I	II	III
9/29	1h 導入	○ 準備をする。	・席につき、気持ちを授業に切り替えさせる。	・準備をしながら気持ちを切り替えさせる。	・自分ができる準備をしながら気持ちを切り替えさせる。
		○ 説明を聞く。 ・ウォールホルの作品を見る。 ・参考作品を見る。 ・注意点を聞く (左右逆になる・文字は描かないなど)	・作品の色に注目させる	・作品に興味を示し、色に注目するように声掛けをしながら注目させる。	・説明の補足をし、作品の色に注目させ制作のイメージを持たせる。 ・注意点を理解しているか確認する。
	2h 展開	① 版板を作る。 ・何を描くか決める。 (ワークシート) ・アイデアをもとに溝をつける。	・準備した版のひもを引っ張ったり、フォークでひっかいたりして、できるだけ自分で溝をつけさせる。	・できるだけ自分の力でクッキー型を何度も押し、溝をつけさせる。	・アイデアをワークシートに描き、それをもとにペン先でスチロール板に自発的に描画し溝をつけさせる。失敗の場合は裏面を使わせる。
		② 刷りをする。 ・デモンストレーションを見る。 ・画用紙の色を選ぶ。 ・絵具を選ぶ。 ・版板に絵の具を塗る。 ・バレンで刷る。	・刷りのデモンストレーションに注目させる。 ・ローラーで色を塗らせる。	・絵具の塗りやバレンでの刷りに注目させる。 ・筆で色を塗りバレンでしっかりと押さえることを意識させ刷らせる。	・刷りの手順に注目させる。 ・自由に色を変え、何枚も作品に挑戦するように促す。
		○ 片づけをする。	・できることをさせる。	・自分の使ったものを片付けさせる。	・係を意識し、協力して片付けさせる。
		○ 振り返りをする。 ・台紙の色を決める。 ・次回の説明を聴く。	・好きな色カードを指さしさせる。	・好きな色カードを指さしさせる。	・好きな色を伝えるように促す。
		○ 説明を聞く (刷りがまだ4枚できていない生徒は、刷りを行う)	・4枚作品ができるのが望ましいが、2枚、3枚しか刷ることができなかつた場合は、台紙の貼り方で工夫する。	・のりやはさみを使い、台紙貼りは、できるところはさせる。額作りは、支援が必要であると思われるが、両面テープを剥がしコルクチップを自由に貼らせる。	・自分の意志で作品選びを行わせ台紙に貼ることにより自発的な活動を促す。 ・手順を示しながら、チップの色や並べ方で工夫できるところは促し、丁寧に額を仕上げさせる。
③ 作品を4枚選ぶ。 ・台紙に張る。	・額作りは支援が必要であるが、両面テープをはがすなどできるこ				
④ 額を作る ・コルクの色や配置を考える。 ・コルクチップを付ける。					
10/6		○ 説明を聞く (刷りがまだ4枚できていない生徒は、刷りを行う)	・4枚作品ができるのが望ましいが、2枚、3枚しか刷ることができなかつた場合は、台紙の貼り方で工夫する。	・のりやはさみを使い、台紙貼りは、できるところはさせる。額作りは、支援が必要であると思われるが、両面テープを剥がしコルクチップを自由に貼らせる。	・自分の意志で作品選びを行わせ台紙に貼ることにより自発的な活動を促す。 ・手順を示しながら、チップの色や並べ方で工夫できるところは促し、丁寧に額を仕上げさせる。

		○片づけをする	とをさせる。		・額を付けることで作品を作り上げたという充実感が湧くように指導者は作品についての声かけを行い、自分の作品に注目させる。
1h まとめ	⑤ 飾って鑑賞し合う。 ○ 振り返りをする。		・作品に注目させる。	・友達作品にも興味を持たせる。	・みんなの作品に目をむかせる。

作業学習（家庭班）個別の年間指導目標、学習活動及び内容検討会資料

学年	氏名	年間指導目標	
3	I.S 周りが気にな って手元に集 中できないこ とがある。	年間 目標	○健康管理に気を付けつつ、体力をつける。 ○身の回りのことを自分の力でできることを増やす。
		自立等 関連 目標	・体をしっかり動かして、バランスよく体力をつける。 ・二文字以上の平仮名を読むことができる。 ・3までの具体物が分かるようになる。 ・数字と物のマッチングができるようになる。 ・鼻を触る時はティッシュで触る。
		目標	・周囲に気を取られず集中して取り組む。
		手だて	・よそ見をしない集中しやすいような環境を設定する。
		評価	・作業内容を理解すると集中して取り組めることが多くなった。
		目標案 手だて	・集中して取り組む（継続） ・簡単な言葉で報告ができる。 ・周りの環境を整える。 モデルを示し、報告の練習をする。
		評価	
		3	S.W 花マルを目指 して落ち着い て作業に参加 することがで きる。
自立・ 教科等 関連 目標	・課題等できたら報告し、自分で考えて行動することができる。 ・正しい姿勢で学習することができる。 ・お金がいくらあるか分かる。 ・時計が読めるようになる。 ・気になることがあっても友だちをそっとするなど、場に応じた行動ができる。		
目標 手だて	長時間の作業でも集中力を保つ。難しい時には、自分でリフレッシュできる方法を知る。 集中力が続かない場合には、体操などリフレッシュする方法を提案する。		
評価	集中して取り組んでいた。分からない時や困った時には自分から声を掛けていた。		
目標案 手だて	できることを増やし（技能面での伸び）自信をもって作業に取り組めるようになる。リフレッシュは継続。 スモールステップでできることを1つずつ確認する。質問タイムを設け質問しやすい雰囲気を作る。		
評価			

3	H.R 作業の内容や手順を理解して取り組むことができる。	年間目標	○中学生らしくけじめをつけて行動するとともに、場に応じた所作ができるようにする。 ○生活で使える漢字の読み書き、お金の計算、時計の読み方、計算する力を身に付ける。
		自立等 関連 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みだしなみを整え、正しい服装をすることができる。</li> <li>・その場に合った正しい言葉遣いをすることができる。</li> <li>・字を丁寧に書くことができる。</li> <li>・正しく計算できる。(計算機を使って合計金額やおつりを計算する)</li> <li>・時計や時間の流れを読むことができる。(アナログ時計で～分後が分かる)</li> <li>・けじめをつけて行動することができる。(今するべきことが理解できるように促す)</li> <li>・相手の気持ちや状況に気をつけて行動することができる。</li> </ul>
		目標 手だて	どんな作業でも最後まで取り組むことができる。
			伝える言葉をパターン化し、繰り返し指導を行うことで定着を図る。落ち着いて作業できない場合にはクールダウンの場を設けたり、冷静になれるような言葉かけをおこなったりする。
		評価	具体的な目標を立てることや好きな活動を取り入れることで落ち着いて作業に取り組むことができた。
		目標案	適切な道具の使い方や言葉遣いを覚え、正確に作業をすることができる。準備や片づけを手伝うことができる。
		手だて	具体的目標やモデルを示し目標を意識させる。できたかどうか自己評価の時間を設定する。
評価			
3	H.C 作業の呑み込みが早い。同じ集団にいられず、友達と関われない時がある。	年間目標	○学習したことを日常生活で活用することができる。 ○社会のマナーを守り、話し方や言葉遣いを知り、それらを意識して生活できる。
		自立等 関連 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを安定させて集団生活が送れるようにする。</li> <li>・気持ちが落ち着かない時、クールダウンしたい時に近くの職員に報告することができる。</li> </ul>
		目標	友達と同じ教室で長時間作業することができる。道具を大切に扱い丁寧に作業することができる。
		手だて	道具の適切な扱い方など初めに丁寧に説明する。言葉かけをして注意を促したり称賛をすることで自信を持たせる。
評価	遅れて入室することもあったが、1年生との移動を任せることで遅れることもなくなった。教室でずっと作業に取り組めた。やや不安定になることもあったが、好きな活動を取り入れることでほとんど最後まで頑張れた。		

		目標案	適切な道具の使い方や言葉遣いを覚え、正確に作業をすることができる。 準備や片づけを手伝うことができる。
		手だて	具体的目標やモデルを示し目標を意識させる。できたかどうか自己評価の時間を設定する。
		評価	
3	Y.R 簡単な作業の手順を理解して1人で進められる。元気よく挨拶して入室できる。	年間目標	○文字や数字を使って、日常生活の中の様々な場面に生かすことができる。 ○人とのかかわりを楽しみながら、何事も自分の力でやりきろうとする意欲を持つことができる。
		自立等関連目標	場面に応じた言葉遣いができる。・自分で活動を選択できる。 ・手元を見ながら集中して活動できる。・歯ぎしりをする時間を減らす。 ・ひもむすびをすることができる。
		目標	正しい言葉遣いで報告できる。周りの状況に気を取られず、手元を見ながら最後まで取り組むことができる。
		手だて	報告の言い方をパターン化させることで定着を図る。言葉かけをして注意を促したり、できたことを称賛することで自信をつけさせる。
		評価	手元をよく見て作業できるようになった。より向上することを目指して継続。
		目標案	正しい言葉遣いで報告できる。周りの状況に気を取られず、手元を見ながら最後まで取り組むことができる。
		手だて	報告の言い方をパターン化させることで定着を図る。言葉かけをして注意を促したり、できたことを称賛することで自信をつけさせる。
		評価	
3	U.K 全体指導での教師の話は聞き取りにくいことがある。	年間目標	○定時にトイレに行き、1人で処理ができるようになる。 ○学習したことを日常生活に生かすことができる。
		自立等関連目標	・始めの挨拶や終わりの挨拶、時間割発表などにおいて、相手が聞き取れるように大きな声でゆっくりと言うことができる。 ・集団で移動する際、集団から離れずに一緒に行動することができる。 ・スピーチなどの機会を通して、友だちとの会話を楽しみ、友だちを知ることができる。
		目標	分からない時には自分から「教えてください」と伝えることができる。作業の手順を覚え取り組むことができる。
		手だて	分からない時の対処法を一緒に確認し、自発的に言えるようにする。作業の流れが分かり易いように説明したり見本を見せたりする。
		評価	促すことで伝えることはできたが、自発的に伝えることは難しかった。 継続 縫物で間違えることは少なくなったが、準備物を自分でそろえることが難しかった。

		目標案	分からない時には自分から「教えてください」と伝えることができる。 準備物が分かり自分で準備することができる。
		手だて	分からない時の対処法を一緒に確認し、自発的に言えるようにする。 作業の流れが分かり易いように説明したり見本を見せたりする。準備物リストを見せ、必要なものを自分で気づかせる。
		評価	
2	<b>H.S</b> 興味を持って活動に取り組んでいる。指示を聞かずに自分流になってしまふことがある。	年間目標	○仲間との適切な関わり方、基本的なマナー、場に応じた行動や言葉遣いを身に付ける。 ○生活や自立に必要な言語力、数概念を身に付け学習したことを生活の中で使うことができる。
		自立等関連目評	・相手や場に応じた言葉遣いがあることを知る。 ・トイレは休憩時間にする。 ・できるだけ体重増加をしない。 ・気になっていることがあればできるだけ早く解消してやり、場合によっては待つこともあるのでわかりやすく説明する。 ・トイレは休憩時間だけと約束し水分補給時はコップを使うなど飲んだ水分量がわかるようにする。
		目標	決められた仕事を最後までやり遂げることができる。 説明を聞いたり写真を見たりして自分の仕事を理解することができる。 当番の仕事が1人でできる。
		手だて	説明する先生を見るように注意を促す。自分流にならないように基本的な手順を繰り返し示す。できたかどうか自己評価の時間を設定する。
		評価	繰り返すことで話を落ち着いて聞けるようになってきた。自分流になることもほとんどない。当番の活動にも取り組めた。
		目標案	適切な道具の使い方や言葉遣いを覚え、正確に作業をすることができる。 準備や片づけを手伝うことができる。
		手だて	具体的目標やモデルを示し目標を意識させる。説明する先生を見るように注意を促す。自分流にならないように基本的な手順を繰り返し示す。できたかどうか自己評価の時間を設定する。
		評価	
2	<b>K.R</b> 興味を持って意欲的に取り組んでいる。注意散漫な時が多い。	年間目標	○話をしている人に注目し、1回の指示でみんなと一緒に行動に移すことができる。 ○適切なコミュニケーションの仕方、基本的なマナーを身に付ける。 ○生活や自立に必要な言語力・数概念を身に付け学習したことを生活の中で使うことができる。
		目標	説明を聞いたり写真を見たりして自分の仕事を理解することができる。 道具を準備することができる。
		手だて	話す人に注目を促す。全体指導の後、さらに確認して活動内容の理解を深める。
		評価	集中して話を聞けるようになってきたが、活動中に注意散漫になること

			もあった。
		目標案	話をしている人に注目し、なるべく1回の指示でみんなと一緒に行動に移すことができる。
		手だて	話す人に注意を促す。1回の指示で行動に移せるような場面を設定し、1回で話が聞ける経験を積ませる。1回の指示でわからなかった時の対処法を教える。
		評価	
2	<b>K.H</b> 作業に自信があり、意欲が高い積極的に参加する。	年間 目標	○仲間との適切な関わり方、コミュニケーションのとり方を身に付ける。 ○自分の気持ちをコントロールし、仲間と穏やかな気持ちで接することができる。 ○身辺処理や衛生面に気を付けることができる。
		目標	最後まで集中して丁寧に作業することができる。
		手だて	簡単な作業内容から始め、苦手意識を取り除く。できた時には大いに称賛し、やる気を促す。
		評価	最後まで丁寧にする場面が多かったが、自信がないとやる気をなくすことがあった。分からない時には質問することができつつある。
		目標案	最後まで集中して丁寧に作業することができる。(継続) 分からない時には質問することができる。
		手だて	簡単な作業内容から始め、苦手意識を取り除く。できた時には大いに称賛し、やる気を促す。質問タイムを設け、質問しやすい雰囲気を作る。
		評価	
1	<b>M.H</b> 理解力が高く作業に意欲的に取り組むが、自分流になってしまうことがある。	年間 目標	○学校や集団でのルールやマナーを守り、他者との適切な関わり方を身に付けながら、落ち着いて行動することができる。【生活面】 ○日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、学習したことを生活の中で活用でき、自分の気持ちや思いを素直に表現する力を身につけることができる。【学習面】
		自立等 関連目 標	礼儀正しい言葉遣いや態度を身に付ける。 ・場面に応じた言葉づかいや態度ができる。 ・初めてのことや苦手意識のある活動に対して、前向きに挑戦することができる。 ・自分の気持ちや思いを正しく言葉で正直に表現することができる。
		手立て	・ソーシャルスキル学習を通して、ロールプレイやプリント学習を工夫し定着を図る。 ・基本的には自らの発信を待ち、伝えることが難しい時には聞く時間を設定する。 ・ルールを決めて、明確化することで、自分で意識しながら様々な決まりが自主的に守れる支援を工夫していく。
		目標	適切な道具の使い方や言葉遣いを覚え、正確に作業をすることができる。 分からない時には質問することができる。
		手だて	具体的目標やモデルを示し目標を意識させる。説明する先生を見るように注意を促す。自分流にならないように基本的な手順を繰り返し示す。質問タイムを設ける。できたかどうか自己評価の時間を設定する。

		評価	
1	T.R 初めてのことに抵抗を示すが、自分のペースで楽しんで作業に取り組める。切り替えが難しい面がある。	年間目標	○学校や集団でのルールやマナーを守りながら、学校生活や学習の流れに沿って行動することができる。【生活面】 ○日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、友だちや先生と協力しながら活動に取り組むこともできる。【学習面】
		自立等関連目標	・初めてのことや苦手意識のある活動に対して、前向きに挑戦することができる。 ・その場にふさわしい言葉遣いや態度を身に付けることができる。 ・相手の気持ちを考えながら、自分の気持ちや行動を表現することができる。
		手立て	・ソーシャルスキル学習を通して、ロールプレイやプリント学習を工夫し定着を図る。 ・基本的には自らの発信を待ち、伝えることが難しい時には聞く時間を設定する。 ・ルールを決めて、明確化することで、自分で意識しながら様々な決まりが自主的に守れる支援を工夫していく。
		目標案	最後まで集中して丁寧に作業することができる。 分からない時には質問することができる。 ・できるだけ多くの時間作業に集中して取り組むことができる。 ・適切な道具の使い方や言葉遣いを覚え、正確に作業することができる。 ・できた時には報告をしたり、分からない時には、質問することができたりする。
		手だて	簡単な作業内容から始め、苦手意識を取り除く。本人のペースを尊重しつつ、できた時には大いに称賛しやる気を促す。質問タイムを設け、質問しやすい雰囲気を作る。 ・具体的目標やモデルを示し目標を意識させる。 ・説明する先生を見るように注意を促す。 ・仲の良い生徒と一緒にしたり、得意な作業をはじめにしたりすることで、意欲的に取り組めるよう配慮する。
		評価	
1	M.M 理解力が高く作業に意欲的に取り組めるが、ペース配分が難しく時間いっぱい取り組めないことがある。	年間目標	○生活の中で使える漢字の読み書き、お金の計算、時刻と時間、量の測定、計算等の力を定着させる。【学習面】 ○中学生らしくけじめをつけて行動するとともに、友達や先生との適切な距離での関わりを身につけることができる。【生活面】
		自立等関連目標	・友だちを尊重し、頼まれてから手伝うようにする。 ・集合時間、終了時間を意識して行動する。 ・作業の途中でも時間が来たら終わることができる。
			・「まず自分のこと」を意識させる。 ・タイマーや集合の合図、周りの動きを意識させる。 ・「途中でも手を止める」を意識させる。
		目標案	適切な道具の使い方を覚え正確に作業をすることができる。 時間いっぱい作業に取り組むことができる。
手だて	具体的目標やモデルを示し目標を意識させる。休憩は休憩時間にとることを事前に伝え、作業時間を意識させる。できたかどうか自己評価の時間を設定する。		

		評価	
1	M.H  自信がないせ いか指示を待 つことが多い。 こつこつが んばれる。	年間 目標	○漢字や文章の読みを中心に、数のまとめり、金銭の扱い、時刻と時間、長さや重さの測定等、生活に役立つ学習の経験を積み重ねる。【学習面】 ○体調に気を付けながら運動の機会を増やし、体力をつけていく。【生活面】
		自立等 関連目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大人の距離」を意識して、適切な距離で関わるができる。</li> <li>・校内を一人でも移動できるようにする。</li> <li>・交友関係を広げることができる。</li> <li>・前向きな気持ちで学校生活を送ることができる。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が近づいてきた時の断り方、距離のあけ方も身に付けさせる。</li> <li>・校内でのお使い、手伝いの機会を増やし、校内の位置関係を理解させる。</li> <li>・他学級、他学年の友だちとも交流の機会をもつ。</li> <li>・「たのしかったことノート」を活用する。</li> </ul>
		目標案	最後まで集中して丁寧に作業することができる。 分からない時には質問することができる。
		手だて	簡単な作業内容から始め、苦手意識を取り除く。本人のペースを尊重しつつ、できた時には大いに称賛しやる気を促す。質問タイムを設け、質問しやすい雰囲気を作る。
		評価	

## ア 研究のねらい

本校では、対象年齢の幅が広く、より詳細な実態把握ができるものとして、ASAを実施している。しかし、実施することのみに追われ、客観的なデータとして捉え、その結果を日々の支援に生かすまでに至っていないのが現状である。

そこで、本年度は、ASAの検査結果から得られたことをどのように評価し、日々の支援に生かしていくか、具体的な支援方法までを整理し、実施し見直すといった「P-D-C-A」のサイクルで事例研究を行うこととする。

## イ 研究の内容

### ●Plan(計画を立てる)



- ①研究班内で、事例を2つ選ぶ。
- ②検査結果の評価を行う。(プロフィールの比較)
- ③課題となるべく項目を選び出す。
- ④課題解決のための支援方法を検討する。

### ●Do(実行する)



- ①学級担任と連携を図りながら、具体的な支援を行ってもらう。

### ●Check(評価する)



- ①記録を基に、対象児の変容等を見ていく。
- ②具体的支援の方法が妥当であったかを評価する。

### ●Action(改善する)

- ①さらに、よい支援方法を探る。

※2つの事例に関しては、別紙に具体的に記す。

## ウ 成果と課題

### <成果>

- ①ASAという客観的なデータがあることで、具体的支援の根拠を得ることができた。
- ②昨年度の取り組みを通して、検査結果の見方の基盤ができていたので、ASAの結果から、児童生徒の課題が絞れ、より具体的な支援方法を探ることができた。
- ③児童生徒の中心となる課題や、それに対する具体的な手立てについて様々な意見を出し合い、検討することができた。

### <課題>

- ①研究グループ内では話し合う時間が確保されていたが、日常的にこのような時間を設けるのは、難しいと思われる。
- ②ASAの研修は、夏季休業中に行っているが(教育支援部主催)、その解釈をどのように指導に生かすかという部分に関しての情報が少なく、ASAが有効なものとして捉えきれていない。

今後は、今年度のような事例を積み重ね、来年度は、本校独自の事例集等の作成を行い、全職員に還元できるように取り組んでいきたい。

<事例1>

対象生徒	高等部 2年 性別 ( 男 )
実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 短期記憶が困難で、自分の経験したことを思い出して話すことが苦手である。</li> <li>○ 自分自身のことを話すことが難しい面がある。</li> <li>○ 質問されることに苦手意識があり、会話が単語の羅列になったり、途中でやめたりすることがある。</li> </ul>
ASA の結果	<p>A 言語スキル</p> <p>「経験したことを話す」「自分について話す」「質問に答える」の項目で下位領域得点が低く、判定が平均未満であった。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分のしたことや気持ちを言葉で表現できるようになる。</li> <li>○ 自信を持って話すことができる。</li> </ul>
具体的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 授業の流れを視覚的に示して、見通しを持たせる。</li> <li>② 「いつ」「何を」「どうした」の聞き取りの練習</li> <li>③ 教材の活用 「いつ」「何を」「どうした」のそれぞれにポイントを絞った「聞く」・「書く」学習</li> <li>④ 音読や繰り返し</li> <li>⑤ 良い表現への賞賛 → 伝え方の具体的なモデルの提示</li> </ul>
変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業の流れを視覚的に提示することで、落ち着いて取り組めるようになった。</li> <li>○ 聞き取りのポイントを絞ることで、集中して聞く態度が身についてきた。</li> <li>○ 日記などが上手に書けている時はおおいに賞賛することで、書くことに対する抵抗感を減らすことにつながった。</li> <li>○ 教室にある電話の応対の上手さを学級の生徒の前で賞賛することで、人前で話すことに対して積極性が出てきた。</li> <li>○ 他の生徒の前で賞賛されることで、学級における本人の存在感も少しずつ見いだされ、落ち着いて行動できるようになった。さらに、他の生徒との関係も良好になってきた。</li> </ul>
実践者の感想等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ASA の検査を実施することで、いくつかの課題が挙げられたが、研究班で話し合いを重ね、さらに課題を絞り込むことで課題を明確にでき、そこに焦点を当てて授業を組み立てることができた。</li> <li>○ データを元にした具体的な支援を関係職員と共通理解することで一貫した支援ができた。</li> <li>○ 授業時間が十分確保できず、継続した指導がしづらい面はあったが、学校の日常生活場面において、教師側が意図的にタイミングよく支援をしたり賞賛したりすることは有効であった。</li> </ul>

<事例2>

対象児	小学部 3年 性別（男）
実態	<p>○穏やかに落ち着いている時間が少なく、溜まったエネルギーを発散するような感じで、大きな声を出したり、不適切な言葉を言ったりする。</p> <p>○身体を動かすことが好きで、身体能力も高い。</p> <p>○失敗や間違いを嫌い、発表して不正解だと機嫌が悪くなったり悔しく泣いたりして学習が続けられなくなる。</p> <p>○力でのケンカが強い人が『つよい』『かっこいい』と思っているところがあり、クラスの達を自分より下だと見下すときがある。</p> <p>○自分ではない他の友達が褒められると機嫌が悪くなり、わざと意地悪を言ってその友達を怒らせ不安定にさせたりする。</p>
ASAの結果	【D 対人関係スキル】に課題がみられた。
課題	<p>○感情のコントロールができるようになる。</p> <p>○自己肯定感を高め、自信をもつことができる。</p>
具体的支援	<p>課題の解決のために、ASAの項目【対人関係スキル】の中の「きまりを守る」・「学校のきまり」に焦点をあて、学級の係活動と当番活動で重点的に支援を行った。</p> <p>① 係の仕事を見直し、確実にできるような仕事内容に変更。</p> <p>② 一つの活動が定着するように長いスパンで当番の仕事を任せる。</p> <p>③ トークンエコノミーシステムを用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲット行動「クラスみんなの分の給食準備と食後の台ふきを毎日行う」</li> <li>・方法 台ふき後に一枚シールがもらえる。 シールが2枚溜まった火曜日と、シールが3枚溜まった金曜日にご褒美がもらえる。</li> </ul> <p>★ご褒美・・・好きな活動（調理、買い物、外遊びなど）、ティーパーティー</p> <p>④ 対象児のみではなく、クラスの児童全員にそれぞれターゲット行動を決め、トークンエコノミーシステムを用いる。</p>
変容	<p>当番の仕事毎日休まず行うことは大変だった。やりたくない日もあれば、気分が乗らない日もあり、その都度話をしたり応援したりしながら進めてきた。コツコツと休まず続けたことは、本人の大きな自信につながったように思う。また、気持ちの切り替えが前よりも随分早くできるようになった。少しずつではあるが、感情のコントロールもできるようになってきた。これまでは自分と友達の課題や活動内容が違うことが受け入れられず、しばしば不満を言うこともあった。今回、この取り組みを通して、人それぞれに違った課題がありみんな違う存在ということを受け入れられるようになってきた。</p>
実践者の感想等	<p>日々の活動の中でたくさんの課題や問題に遭遇する。どのような手立てが有効だろうか何をしたらいいのかな？と迷い考えることも多い。何に焦点をあてて支援をしていくかを考える上で、今回客観的なデータともいえるASAを利用するのはとても有効だった。他の先生方とも共通理解を図る上でもASAのデータをもとに話を進めることができた。また、ターゲットを絞れたことでより具体的な支援ができた。</p>

## 性に関する指導研究班

「小中高各学部が“つながり”を図りながら、性に関する指導を行う。」

### ア 研究のねらい

昨年度の研究において、性教育の課題として、児童生徒の発達段階や受容能力などの実態の多様化により指導内容の選択が難しくなってきたことや、外部からの中・高の新入生が増えたことで、系統的な性教育の指導の必要性が高まってきたことなどの課題が上がった。3カ年計画で始めた研究として、昨年はまず、各学部の性教育の学習指導案集を参考にしながら、系統的な性教育の指導内容の見直しを行った。

2年目の本年度は、昨年度の見直した指導内容を元に、略案作成や教材研究を行い、各学部で系統的な性教育の指導の授業実践を行い、成果と課題を可視化することで、3年目のまとめにつなぎたいと考えた。

### イ 研究の内容

基礎・基本グループ	抽出指導グループ
<p>昨年作成した性教育の段階表を基に同じ項目で小中高の各学部で略案を作り、授業実践をした。授業後には、成果と課題をまとめた。分担する項目は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二次性徴（月経指導）</li> <li>○体の清潔（排泄の仕方）</li> <li>○男女の人間関係等</li> <li>○性被害・加害</li> </ul>	<p>本グループは、Ⅲ課程の生徒及び個別指導が適切とされる生徒で編成され、卒業後は自立して生活していくであろう生徒たちへのメッセージを込めた指導を目指している。</p> <p>昨年作成した指導案の4項目から以下の2つに絞り、授業実践を通して、見えてきた課題について検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「性被害・性加害」高等部3年</li> <li>○「生命尊重と人工妊娠中絶について」高等部2年</li> </ul>

### ウ 成果と課題

#### 基礎・基本グループ

- 〈成果〉
- ・略案作成を通じて、学習内容を細かく整理することで、系統的な指導が分かりやすくなり、学習内容が重複することがなくなった。
  - ・昨年度の研究の成果である段階表を活用でき、系統的な研究ができた。
- 〈課題〉
- ・児童生徒の実態の多様化に対応し、指導内容を臨機応変に変える必要がある。
  - ・性に対する実態をつかみにくく、指導内容の選択が難しい。

#### 抽出指導グループ

- 〈成果〉
- ・興味本位でなく、真剣に男女お互いの身体の仕組みについて正しく理解しようとする姿勢がうかがえた。
  - ・生徒にわかりやすいチェックシートを使用することで、積極的な授業への参加が見られた。
- 〈課題〉
- ・保護者、寄宿舎学校での情報共有や共通理解の必要性を感じた。
  - ・授業前に実施したアンケートの結果、将来子育てをしたいと真剣に考える生徒も多く、今後更に「身体的・精神的・社会的、金銭的」に対する指導の必要性を感じた。

## 児童生徒の健康増進班

### ア 研究のねらい

本グループは、2年目の研究班で、肥満傾向にある児童・生徒への対応に焦点を当てるだけでなく、健康的な生活を生涯営むために、様々な角度から健康へのアプローチを行っていきたいと考える。学校保健委員会や住吉地域ケア会議（「住吉地域ケア会議」とは、住吉地区の医師、保健師、養護教諭、教員、保育士、民生委員等地域子ども達に関わる様々な業種の方が年3回集まり、健康の保持増進や改善のために話し合い、取り組みを考えていく会議です。）と連携を図りながら、様々な取り組みの検討・提案・実践を行ったり、昨年度の成果や課題を基に検討したりしながら、研究後も継続して取り組める活動内容や啓発活動等を築いていきたいと考える。

### イ 研究の内容

#### ○ 昨年度の課題

①	学校だけの肥満対策に限界を感じる。
②	研究後も継続した取り組みを構築するため保健主事をグループメンバーに加えたい。

#### ○ 昨年度の研究で下のような取り組みを今年度行っていくこととなった。

①	昨年度同様に肥満対策のための取り組みを行う。（新たな取り組みの発案も含む）
②	健康への意識を高めるための家庭や施設への協力依頼（アンケートや啓発文書等の作成）
③	生徒や職員への健康に関わる（簡単な運動の紹介・姿勢・虫歯予防・感染症予防等）意識や知識の向上に関する取り組み。（文書・ポスター・放送など）
④	「住吉地域ケア会議」と連携し取り組みを考える。

#### ○ 今年度の取り組みの整理

昨年度の課題や実践案から今年度の取り組みを検討し、下の4つに絞った。

①	昨年度の取り組みに加え、各学部・学年で新たな取り組みが可能であれば実践・報告をする。
②	掃除前の昼休みに放送で曲を流し、3分間体操を行う。
③	通学生の家庭と施設へのアンケートを実施し、肥満対策への意識向上を図り、成果や課題をまとめる。
④	住吉地域ケア会議と連携した取り組みの実践。

#### ○ 各学部・学年の新たな取り組み

小学部	毎週月曜日の体育の時間にウォーキングを実施
中学部	家庭でできるストレッチや簡単な運動の紹介と楽しく取り組めるダンス体操の実践
高等部	健康セミナーの実施
高1	朝のストレッチ

### ウ 成果と課題

	実践内容	成果と課題
①	各学部・学年での新たな取り組み	
	小学部 ・毎週月曜日の体育の時間にウォーキングを実施	無理なく、継続して取り組むことができるウォーキングを毎週月曜日の体育の時間に実施した。体育の時間以外にも、みや中央タイムや自立活動の時間にウォーキングに取り組む学級もあった。今後も継続して行い、運動量の確保に

			努めたい。
	中 学 部	・家庭でできるストレッチや簡単な運動の紹介と楽しく取り組めるダンス体操の実践	今年度は、体育で体づくり運動を多く設定し、家庭でも取り組める運動を紹介した。その単元で行った運動を夏休みでは約19%、冬休みでは約21%の生徒が家庭で実践し、生涯を通して運動に親しむ能力を養えたのではないかと考える。今後もこの視点で取り組んで行きたい。
	高 等 部	・健康セミナーの実施	楽しみながら継続して取り組める運動を定期的に行い、健康の保持増進、体力の向上を目的に行った。多様な運動を取り入れたり、運動したらシールがもらえたりすることで、楽しみながら意欲的に取り組む様子が見られた。継続して行い、肥満改善や予防に努めたい。
	高 1	・朝のストレッチの実施	朝の時間を利用して各学級ごとにストレッチを実施した。約10種類の簡単なストレッチを写真や絵を載せた資料を見ながら取り組んだ。毎日なかなか無理だが、週に2～3日行い、生徒・職員からは気持ちいいとの声を聞くことができた。今年度はⅡ課程を対象に実施したので、来年度はⅠ課程にも実施することと、学期ごとにストレッチの内容を変えることが今後の課題と考える。
②		・掃除前の昼休みに放送で曲を流し、3分間体操を行う。	清掃5分前行動を意識づけしているため清掃3分前での体操は難しい。また、目を離している時に体操をしてケガをしたら困るなどの反対意見があり、今年度の実施は見送った。来年度、この体操を健康セミナーに盛り込むなどの検討をしていきたい。
③		・通学生の家庭と施設へのアンケートを実施し、肥満対策への意識向上を図り、成果や課題をまとめる。	施設へのアンケートは、アンケート結果を施設へ返した場合、どのように受け止められるか分からないので、今回は学校と施設が良好な関係を保つために見送った。来年度、アンケート内容を検討し施設の協力を仰ぎたい。また、家庭へのアンケートは、朝ご飯をほとんどの家族が食べていて良い結果が出た。アンケート結果を返し、また来年度アンケートを行うことで意識改革がなされたかや新たな問題点、取り組みについて検討していきたい。
④		・住吉地域ケア会議と連携した取り組みの実践。	会議が発足して2年目になるが、なかなか取り組みがまとまらない中、とにかく何かを実行しようということで、まずはポスターとチラシを作ることとなった。ポスターには、「はやおき・はやね・あさごはん」～まいにちげんき～といれデザインを日大高校等に依頼。チラシには、この会議の経緯等を入れて、地域の幼・保・小・中・高・特・公共施設に配布することとなった。

ア 研究のねらい

- 「対人関係」と「生活実務（身辺自立）」について、Ⅰ課程、Ⅱ課程、Ⅲ課程に相当する出身者ごとの定着と課題を整理し、現在の指導・支援に生かせるようにする。
- 小・中・高段階のそれぞれの事例について、進級や卒業後の定着や課題を追って整理することで、つながりある支援を具体化させられるように、手立てや支援の工夫について分析する。

イ 研究の内容

- (1) 小中高でモデルとなるケース（全部で9ケース）を集め、過去の教育カルテ（指導の記録等）を調べたり、かつて関わった先生方からの追跡取材を行った。その後、その当時の指導・支援のねらいや現在とのつながり等について整理し、目標設定の在り方や手立て等について考察を行った。
- (2) 追支援や卒業生本人からの相談から得られた課題について、成果と課題を分析した。

ウ 成果と課題

<成果>

- （重複学級から通常学級への課程変更など）支援をステップアップさせていく上での着眼点や見極めの実際を「身辺処理」「対人関係」の観点から整理し、焦点化させることができた。  
例：①節目（進級・入学（小→中）（中→高））を利用した「切り替えを図る」課題設定。  
②身辺処理力を向上させる（集中が難しい分をまわりを見て模倣するところから行う等）  
③モデルとなる集団を確保して、学ぶ機会を仕掛ける。（対大人から子どもへ）
- 成果（早期療育の有効性など）や次の段階で求められる力と課題（適度な距離感をもてること等）について、学部段階の経過表に表していくことで「変容（成果）」「手立て」「次の課題」がとらえやすくなった。
- 成長を促す目標設定と見極めの視点、小スパンをもつことなどの具体的な手立てを各学部の例から学ぶことができた。
- 5年前以前の卒業生と比較し、トラブルや悩みを早期のうちに解決しようと「相談できる力」が全体的についている（在学中からの相談スキルが積み上がっている）ことが確認できた。  
（隠して進めない、自分たちだけで短絡的に判断しない・・・など）

<課題>

- 全体へ報告する方法を工夫する必要があること。「ダメ出し」ととらえられることなく、「支援のアイデア共有」へ集中して導く「報告シート」を開発する必要がある。
- 追跡を行う中で、成長過程で生じる「課題」の方が多く報告されたが、「安定・緩和・軽減されている」面についての要因を優先して分析できるようにする必要がある。
- 療育（通院・服薬）や福祉サービスの利用（短期入所・放課後デイ等）を開始された時期を確認することができたが、追跡ケース数がやや少ないことや個々のケース特性もあり、共通化された「節目」として位置づけるまでに至れなかった。
- 保護者支援・家庭支援が必要なケースの中での「緊急対応」スキルや「優先課題」をとらえていく考察を深く、多くできなかった。  
（プライバシーへの配慮等があったり、現実的、具体的な手立てを描くことが難しかった）。  
「音楽の指導に関する研究班」～「音楽科における評価規準の作成と活用」

「音楽の指導に関する研究班」～「音楽科における評価規準の作成と活用」

ア 研究のねらい

「授業研究を通して題材における観点別評価の評価基準を設定し、授業改善に活かす。」  
 仮説：観点別評価の評価基準を設定することで、より実態に応じた学習内容、学習活動を工夫した授業づくりを行うことができる。

イ 研究内容

- ◎昨年度作成した音楽評価規準表の見直し
  - ・観点別評価との違いを検討し、名称を「音楽活動における実態評価規準表」に変更。
- ◎評価、観点別評価についての資料研修
  - (資料例)・新学習指導要領における学習評価の進め方
    - ・学習評価の意義、
    - ・知的障がい教育における観点別学習評価の意義、取組について
    - ・評価の観点及びその趣旨（小学校・中学校）
    - ・体系的な学習評価のPDCA サイクル概念図 等
- ◎各学部において年間指導計画の修正、検討。
- ◎題材との関連性を深めた評価の試案（高等部・表現の観点における観点別評価の作成）
- ◎授業研究を通じた観点別評価の実践研究
  - ①音楽科の授業での研究内容
    - ・実態評価規準表による観点別の評価を個別に設定
    - ・活動での具体的な観点別評価規準の提示
    - ・題材の目標・本時の目標・本時の個別目標と個別の評価規準の関連性
    - ・観点別評価項目を設定し学習指導案（指導過程）に明記
  - ②自立活動の授業における観点別評価の設定の視点
    - ・題材の観点別評価規準と自立活動の指導内容との関連性
    - ・各学級で設定された自立活動における個別目標と本時の個別の目標との関連性
- ◎授業研究および事前研究、事後研究の実施

授業研究実施一覧

学部	学年・学級	授業者	授業実施日 題材
小学部	5, 6年生	兒玉京子	10/14（金）3校時（学校訪問） 「リズムにのって」
中学部	1年生	中村かおり	9/12（月）2校時 「心を合わせて」
	合同重複障がい学級	榎田友香	10/17（月）5校時 「祭りの季節だ！実りの季節」
高等部	3年生重複障がい学級	山本由紀	9/27（火）6校時 「音楽のお話楽しんで」

高等部	1年生合同		～不思議な音を合わせよう～
		日高まり子	10/4(火) 5校時 「音楽を感じて表現しよう」
	2年生合同		
	2年生重複障がい学級		12/8(木) 2校時 「いろいろな音楽の表現法を楽しもう」 12/8(木) 5校時 「想像的な表現を音楽で楽しもう」

#### ウ 成果と課題 (成果○ 課題△)

- 学習指導案に題材に沿った観点別評価を示し、更に具体的な個別の観点別評価項目を設定し学習指導案(指導過程)に明確に示すことにより、評価の視点を明確にすることができた。他の職員との指導・支援の共通理解がはかれ、支援の仕方や評価のポイントが分かりやすくなったとの感想があがった。
- 評価規準や評価の場面を明確にすることで、目標がずれることなく、指導計画にも一貫性を持てた。
- 自立活動のねらいと授業の関連性を検討する機会となった。
- 学習指導案を検討する中で、楽曲分析や活動のねらいなど様々な視点について意見交換することができ、教材研究を深めたり授業の改善に役立てたりすることができた。
- 他学部の授業を相互に参観する機会となり、それぞれの指導を見合うことでそれぞれの学部に参考となる内容が多くあった。

△目標の見直しや整理、目標と評価との関連性の整理が必要。

△自立活動の指導過程上に設定された評価の場面以外での生徒の様子に対する評価を反映するための工夫。

△観点別評価の妥当性の検討～主観的評価に偏っていないか？

「音楽への関心・意欲・態度」「表現の創意工夫」「音楽表現の技能」「音楽の能力の活用」の評価基準作成における具体的な評価の設定の在り方。

△観点別評価の有用性を高めるための工夫改善

- ・年間指導計画と連携させた題材における観点別評価規準の提案
- ・ティームティーチングにおける共通理解の方法の模索
- ・観点別評価基準の焦点化の工夫

△評価後の授業改善の在り方～授業研究の時間だけで終わってはいないか？

- ・教材の精選について・・・題材、目標、評価との関連性が図れているか？
- ・指導の改善に繋がっているのか・・・事後研究後の改善がなされたか？
- ・指導のスキルアップの在り方

## 効率化、共有化～自立活動授業の指導～ 研究班

### ア 研究のねらい

自立活動は、児童生徒個々の障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導を行い、人間として調和のとれた育成を目指すものである。指導にあたっては、児童生徒の障がいの状態や発達の段階等に即して行うことが基本であり、最初から集団で指導することを前提とするものではないとされる。

自立活動の指導の基本にあるように、本校でも、児童生徒一人一人の個別の指導計画に基づき指導を行っている。しかし、目標を達成する上で個別指導の形態で指導を行うことが効果的である場合でも、特に通常学級において個別指導の形態で指導することが難しい現状にある。また、中学部の通常学級では、教育課程の中に自立活動を特設せず、全教育活動の中で指導することとしており、課題や難しさを抱えながら指導を行っている。

そこで自立活動授業の指導研究班では、まず、このような課題や難しさからくる小中高それぞれの現場の困り感を把握することにした。そして、その困り感に応えることで、自立活動授業の指導の効率化・共有化へつなげることができないかと考え研究を進めた。

### イ 研究の内容

#### ① 自立活動の指導に関する情報交換

- (ア) 各学部の教育課程の確認
- (イ) ニーズや困り感について

#### ② 教材、指導事例の共有化

- (ア) 教材について

作成したり現在活用したりしている教材を、昨年度の高等部Ⅰ課程の検討班の研究で整理したサーバーのホルダーを活用し、関連する自立活動の区分に分けた。

- (イ) 指導事例について

班を大きく2つのグループ、「主に身体の動きに課題のある児童生徒への自立活動の指導」と「主にコミュニケーション・心理的安定に課題のある児童生徒への自立活動の指導」に分けて指導事例をまとめることとした。

### ウ 成果と課題

#### ① 成果

- (ア) 小中高の職員が構成メンバーとなり、他学部の自立活動の指導について情報交換を行えたことにより、改めてそれぞれの教育課程の基で指導を行う際の困り感や現場のニーズを具体的に知ることができた。
- (イ) サーバーに、教材と指導事例を関連する自立活動の区分ごとに整理することができた。指導する児童生徒の目標に関連する区分を開くことで、教材や指導事例を見ることができ、教材開発や教材研究の効率化につながるのではないかと考える。

#### ② 課題

- (ア) 本校の通常学級では、中学部にだけ自立活動が特設されていないことに関し、その事実を知らない職員もあり、その意義について確認をする必要があるのではないかと考える。
- (イ) 学校全体の教材を小中高や研究部、教育支援部とも連携し共有化を図っていくとよいのではないかと考える。また指導事例については、過去に作成されたものも含めて整理し、さらに事例数を増やしていけるとよいのではないかと考える。

## 効率化、共有化～国語授業の指導～ 研究班

### ア 研究のねらい

ここ数年、本校児童生徒の障がいの多様化傾向が進み、教科指導においても各学部で工夫して取り組んできているところである。しかし、実態差のある学習集団の中で、指導内容の充実を図るためには、学部間の取り組みや教材教具などの共有を進め、新しい学習活動の考案をしていくことも重要であると考え。そこで本研究班では、国語授業における学部間の情報交換を行いながら、各学部の現状と課題を把握するとともに、指導の手がかりとなるような教材教具の共有化を行っていくこととした。さらに各学部で国語授業における新たな学習活動を考案し、検証していくこととした。

### イ 研究の内容

#### ① 国語授業に関する情報・意見交換

各学部の学習形態や指導内容、指導上の課題などについて情報・意見交換を行った。様々な課題が挙げられた中、共通してあげられた『伝え合う力』を身につけさせるための効果的な指導方法について、各学部で学習活動を考案し、授業実践を行うこととした。

#### ② 検証授業の実施

「聞く・話す」の指導を通して『伝え合う力』を身につけさせるための学習活動を考案し、検証授業を行うこととした。本年度は、小学部、中学部にて検証授業を実施した。(各授業の指導案は、別紙参照) 授業後、学部ごとに事後研究を実施し、合同報告会を行い、検証授業の成果や課題を話し合った。

#### ③ 国語に関する教材の整理と共有化

各学部や特別教室に保管されている国語に関する教材教具の確認を行った。また、学習プリントやパソコン・タブレット教材などの情報収集も行い、把握できた教材教具や学習プリント等を「教材」「書籍、プリント集」「WEB教材」「アプリ教材」に項目分けし、一覧表を作成した。(一覧表は、SV01の「教材」フォルダに保存)

### ウ 成果と課題

- 情報・意見交換を通して、学部内でも他学級・他学年の現状について初めて知ることも多く、参考となった。また他学部の指導形態や内容、指導上の課題等を知ることができた。
- 授業作りを通して、様々なアイデアを出し合うことができ、新たな学習活動の考案、授業実践ができた。
- 教材一覧表を作成したことで、校内に様々な教材教具や学習プリント等があることがわかった。
- 今後も学部間で情報・意見交換を行うとともに、つながりある指導や評価の在り方を考えていく必要がある。
- 検証授業においては、より多くの職員で授業を参観し、意見を交わすことで、よりよい評価・改善につなげる必要がある。
- 授業で学習したことを生活に結びつけるにはどうすればよいかについて考えながら研究を進めていく必要がある。
- 教材一覧表の活用及び、それぞれの学部が所有している教材教具を共有しやすいような保管方法を検討する必要がある。

日 時：平成28年10月14日（金）2校時

場 所：小学部4年1組教室

指導者：羽田 久美子

## 1 題材名「秋の言葉」

## 2 目標

- 秋を表す言葉や文章にふれることを通して、学習活動に意欲的に取り組むことができる。  
(関心・意欲・態度)
- 秋に関する絵本や教師の話を最後まで聞くことができる。(技能)
- 秋の言葉を知り、読んだり書いたりすることができる。(知識・理解)

## 3 指導観

- 特別支援学校小学部の国語科では、児童が日々の生活において、人の話を聞いたり、自分の気持ちを伝えて人と話したり、いろいろなものを読んで情報を得たり、必要に応じてものを書いたりすることを重視し、日常生活に必要な国語を理解し、伝え合う力を養うとともに、それら表現する能力と態度を育てることを目標としている。本題材は、特別支援学校学習指導要領の第2章各教科〔国語〕2段階「(2) 見聞きしたことなどを簡単な言葉で話す。」、3段階「(3) 簡単な語句や短い文などを正しく読む。」、「(4) 簡単な語句や短い文を平仮名などで書く。」を中心に構成し、言葉の理解や表現につなげることをねらいとしている。

2学期、生活単元学習では、みや央祭の準備や思い出発表、さつまいもの栽培や収穫を単元として計画している。そこで、国語科の時間においては、生活単元学習との関連を図りながら、今まで栽培した作物の言葉やみや央祭に関する言葉を取り入れ、理解・表現するための学習もねらい計画した。ここでは、身近にいる秋の虫について取り上げることで季節の移り変わりを感じたり、読むことや書くことへの興味・関心を高めたりすることをねらいとしている。また、秋には、学校行事や地域の行事も多く行われる。日々の生活と季節とのつながりに目を向けることにより自然と季節感が身につくのではないかと考える。

このような学習を生活単元学習などと関連をもたせながら行うことは、言葉について興味・関心を育て、ものの名称の理解を促し、音声や文字で表現する力を育てることにもつながると考え、本題材を設定した。

- 国語の授業は、4年1組・2組合同で行っている。障がいの程度が様々で実態差も大きいので、A. ☆☆☆程度の学習を目指すグループとB. ☆、☆☆程度の学習を目指すグループに分かれて指導を行っている。本グループは、Aグループで男子2名、女子1名の合計3名で学習をしている。国語の各観点について「聞く」については、自分の話したいことを一方的に話し、相手の話を聞かなかったり、空想の世界が好きで話を聞いていなかったりすることがあるが、3人とも指示理解は大体できている。「話す」に関しては、人前では自信がなかったり恥ずかしさからみんなに聞こえる声を出すことができなかったり、オウム返しになったりすることもある。また、自分の気持ちや要求を言葉でうまく伝えることができず大きな声を出したり、机などの物にあたって

りする児童もいる。「書く」ことに関しては、3人とも平仮名はほぼ書けるが、平仮名と片仮名が混ざったり、片仮名を適切に書けない児童もいる。

- そこで指導にあたっては、授業の最初に行っている音読で動画を撮り、正しい口形で発音ができているか確認を行う。音読の活動を動画で撮って見ることで、自分の発音や口形を客観的にとらえさせたい。その際、発音だけでなく身振り等の動きも一緒に行う。言葉と身体表現を一緒に行うことによって、表現する力をより高めていきたい。お互いに動画を撮り合うことで音読が苦手な児童にも活動に対して意欲をもたせることができるのではないかと考える。絵本の読み聞かせでは、絵本に登場する虫に注目して絵本を最後まで聞くようにさせたい。その後、絵本に登場した虫の中から気に入った虫を選び、名前・鳴き声・特徴などを紹介するポスターを作成し、発表を行う。これらの活動を通して聞く力やものの名称の理解を促し、音声や文字で表現する力を育てたい。

#### 4 指導計画（全10時間）

- お月見、敬老の日……………2時間
- お彼岸、秋の植物……………2時間
- 秋の虫……………2時間（本時6／10）
- 発表会（みや央祭）……………2時間
- いもほり、秋の木の実・果物・野菜……2時間

#### 5 本時の学習

##### （1）本時の目標

- 平仮名や片仮名で虫紹介ポスターを書くことができる。
- 秋に関する絵本や教師の話を最後まで聞くことができる。
- 大きな声で虫を紹介することができる。

##### （2）個人の実態及び目標

氏名	実 態	個 人 目 標	個別の指導計画との関連
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の話したいことを一方的に話し、相手の話を聞かないことが多い。</li> <li>・自分の名前や指示された言葉を平仮名で書くことは大体できている。</li> <li>・日常会話はできるが、恥ずかしさからか、話しかけても返事をしないことがある。</li> <li>・平仮名の簡単な文章や絵本を読むことができるが、音読の際、声を出さないことがある。</li> <li>・発表や活動の順番など、1番にこだわる場所がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や教師の話を最後まで聞くことができる。</li> <li>・平仮名や片仮名で虫紹介ポスターを書くことができる。</li> <li>・みんなに聞こえる声で発表しようとするところがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語③</li> <li>国語②</li> <li>国語④</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常会話はできるが、好きなキャラクターになりきっていたり、オウム返しになっていたりとすることがある。</li> <li>・平仮名、片仮名を読むことができる。</li> <li>・空想の世界に入り込み、話を聞いていな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなに聞こえる声で発表することができる。</li> <li>・平仮名や片仮名で虫紹介ポスターを書くことができる。</li> <li>・絵本を見て、最後まで話を聞くこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語②</li> <li>国語③</li> </ul>

B	<p>かったり、落書きをしていたりすることがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名、片仮名を書くことができるが、独自の書き方で覚えている。</li> </ul>	とができる。	
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名を書くことができる。</li> <li>集中力が続かず、姿勢が崩れたり、顔を伏せたりすることがある。</li> <li>平仮名の簡単な文章や絵本を読むことができ、帰りの会で自分の好きな本の読み聞かせをしている。</li> <li>自分の気持ちを文に表すことができ、平仮名で手紙を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名や片仮名を使い、虫紹介ポスターを書くことができる。</li> <li>正しい姿勢で絵本や教師の話最後まで聞くことができる。</li> <li>みんなに聞こえる声で発表をすることができる。</li> </ul>	国語①②

(3) 指導過程

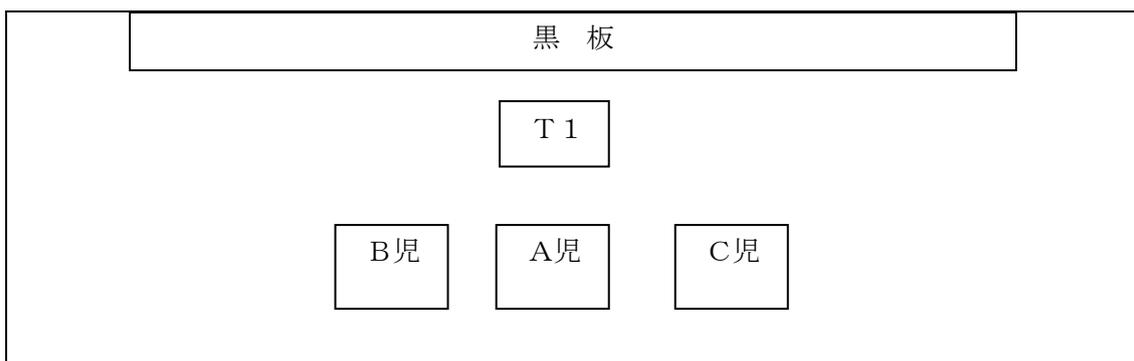
時間	学習活動及び内容	個人別学習活動及び教師の支援			資料準備
		A	B	C	
1分	1 はじまりのあいさつをする。	<p>号令に合わせてはじまりのあいさつをする。</p>			
2分	2 学習の流れを知る。	<p>本時の学習の流れを知る。</p>			ホワイトボードカード
6分	3 音読をする。	<p>音読表を見ながら音読をする。</p>			口形カード 音読表
	<p>1 よむ</p> <p>2 きく</p> <p>3 かく</p> <p>4 はっぴょう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>B児に号令をかけるように指示をする。</li> <li>正しい姿勢で座れているか確認をする。</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の方を向きながら、流れをホワイトボードに記入する。</li> <li>イラストカードを貼り、文字とイラストで学習の流れを確認する。</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>口形カードを貼り、正しい口形で発音するようにさせる。</li> <li>口を開けていたら称賛し、自信をもたせる。</li> <li>動作もつけて音読しているか確認する。</li> <li>出来ていたら称賛し、自信をもたせる。</li> </ul>			
		<p>動画を撮り自分の姿を確認する。</p>			i P a d
		<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いに動画を撮ることで活動に意欲をもたせる。</li> </ul>			
10分	4 絵本のお話を聞く。	<p>出てくる虫に注目して絵本のお話を聞く。</p>			絵本
	「むしたちのおんがくかい」	<ul style="list-style-type: none"> <li>虫に反応したら称賛し、意欲を高める。</li> <li>絵本に注目して話を聞くように伝える。</li> <li>絵本に注目しているか確認する。</li> </ul>			
	きに行ったむしのしょうかいをしよう	<p>出てきた虫を確認する。</p>			イラスト
		<ul style="list-style-type: none"> <li>登場した虫のイラストをはり、名前と鳴き声を確認する。</li> </ul>			虫紹介ポスター

17分	5 虫紹介ポスターを書く。 ・虫の名前 ・虫の声 ・特徴	気に入った虫を選び、紹介ポスターを書く。	CD
	5分	6 発表をする。	
3分	7 本時のまとめを行う。	実際の虫の声を聞く。  ・教師の方を向いて話を聞くように声かけをする。	
1分	8 終わりのあいさつをする。	号令に合わせておわりのあいさつをする。  ・B児に号令をかけるように指示をする。 ・正しい姿勢で座れているか確認をする。	

(4) 評価 評価の基準 ( ◎できた ○一部支援を受けてできた △できなかった )

氏名	評価の観点	評価	特記事項
A	・絵本や教師の話を最後まで聞くことができたか。 ・平仮名や片仮名で虫紹介ポスターを書くことができたか。 ・みんなに聞こえる声で発表しようとすることができたか。		
B	・みんなに聞こえる声で発表することができたか。 ・平仮名や片仮名で虫紹介ポスターを書くことができたか。 ・絵本を見て、最後まで話を聞くことができたか。		
C	・平仮名や片仮名を使い、虫紹介ポスターを書くことができたか。 ・正しい姿勢で絵本や教師の話を最後まで聞くことができたか。 ・みんなに聞こえる声で発表をすることができたか。		

(5) 座席配置



(6) 板書計画

きにいったむしを しょうかいしよう	おなかに てを あて 「あいうえお」 .....	1 よむ 2 きく 3 かく 4 はっぴょう	あ い う え お
----------------------	--------------------------------------	---------------------------------	-----------------------

(ぼく・わたし)のきにいったむしをしょうかいします。

むしのなまえは？

なんてなく？

とくちょうは？

なまえ

日 時：平成 28 年 11 月 9 日（水）3 校時

場 所：中学部 1 年 2 組教室

指導者：松浦 紀子

1 題材名 「大事なことを落とさずに聞こう（聞き取りメモ）」

2 目標

- 話し手に注目し、大事なことを落とさずに聞こうとすることができる。
- 口頭で聞いたことを簡単なメモにとることができる。

3 指導計画

- 注意して聞こう …… 4 時間
  - ・ 「きくきくドリル」を使って
- 「聞き取りメモ」を書こう …… 6 時間
  - ・ 聞いたことを正しく書きとろう …… 3 時間
  - ・ 大事なことをメモにとろう …… 本時（1 / 3 時間）

4 本時の学習

(1) 本時の目標

- メモをとる際に大事なポイントを理解することができる。
- 簡単な文章を聞き、「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」等を聞き取ってメモにとることができる。

(2) 個人の実態及び目標

氏名	実 態	個人目標
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常に落ち着いて学習に参加でき、時間いっぱい取り組むことができる。</li> <li>・ 学習中に別のことに気を取られ、話を充分聞いていないことがある。</li> <li>・ 濁音、拗音、促音等の書き間違い、文法の間違が多い。また、筆圧が弱く、書いた文字が読みにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集中して話を聞くことができる。</li> <li>○ 話の中の大事なポイントを聞き取ることができる。</li> <li>○ 丁寧な文字でメモをとることができる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色々なことに興味をもって学習に取り組むことができる。</li> <li>・ 話しの途中で割り込んで自分の話をしてしまう。</li> <li>・ 注意力散漫で、忘れ物が多い。</li> <li>・ 文字は丁寧で正しい文章を書くことができるが、細かい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 静かに集中して話を聞くことができる。</li> <li>○ 話の中の大事なポイントを聞き取ることができる。</li> <li>○ 時間内に素早くメモをとることができる。</li> </ul>

	いところが気になって周りから遅れがちである。	きる。
C C	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めてのことに苦手意識が強く、丁寧な説明が必要である。</li> <li>話の途中で割り込んで自分の話をしてしまう。</li> <li>指示待ちの行動が多く、話を聞いていない傾向にある。時間が経つと忘れてしまう。</li> <li>文章を書くときに助詞の使い方を間違えることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>静かに集中して話を聞くことができる。</li> <li>先生に聞き返さず、自分でよく聞いてメモをとろうとすることができる。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>静かな環境の中では落ち着いて学習に参加でき、時間いっぱい取り組むことができる。</li> <li>指示は短い言葉でひとつずつ行くと理解が高まる。視覚的な支援が有効である。</li> <li>吃音があり、すぐに言葉がでてこない。</li> <li>濁音、拗音、促音等の書き間違い、文法の間違が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して話を聞くことができる。</li> <li>話の中の大事なポイントを聞き取ることができる。</li> <li>丁寧な文字でメモをとることができる。</li> </ul>

(3) 指導過程

時間	学習活動及び内容	個人別学習活動及び教師の支援	資料準備
1分	1 はじめのあいさつをする。	○教師に注目し、姿勢を正してあいさつをする。	
8分	2 漢字テストをする。 ○毎時間繰り返しの活動を取り入れ、定着を図る。	○宿題でも取り組んでいる漢字プリントに取り組み、定着を図る。  A・D：小学2年生、B：小学3年生、C：小学1年生の問題にそれぞれ取り組む。	漢字プリント
5分	3 音読をする。 ○毎時間繰り返しの活動を取り入れ、定着を図る。	○短文のプリントを音読し、文章を読むことに慣れる。 ○一斉読み、一文ずつ交互読みをすることで、相手の声を聞き、合わせようとする意識をもたせる。	音読プリント
3分	4 本時の学習内容を知る。  聞きとりメモを書こう。	○本時の学習内容をホワイトボードに板書する。 ○声に出して読ませ、学習する内容を確認する。 ○日常生活で、どんなときにメモをとるか考えさせる。  メモをとる時：行事、特別な時間割、持ってくるもの、伝言、買い物、仕事 等	ホワイトボード
5分	5 メモをとる際に大事なポイントを知る。  ・いつ ・どこ ・だれ ・なに ・用意するもの	○これまでメモを取った経験（地域職場体験、みや央祭等）から、メモをとる際にどんなことが大事か考えさせる。 ○メモの書き方例を掲示し、見たときに分かりやすく書くことを伝える。  ○大事なところだけ、単語または箇条書きで書く。 ○漢字でも平仮名でもよい。 ○分からないところは聞き返す。 「もう1回言ってください。」「いつですか？」等	拡大メモ用紙

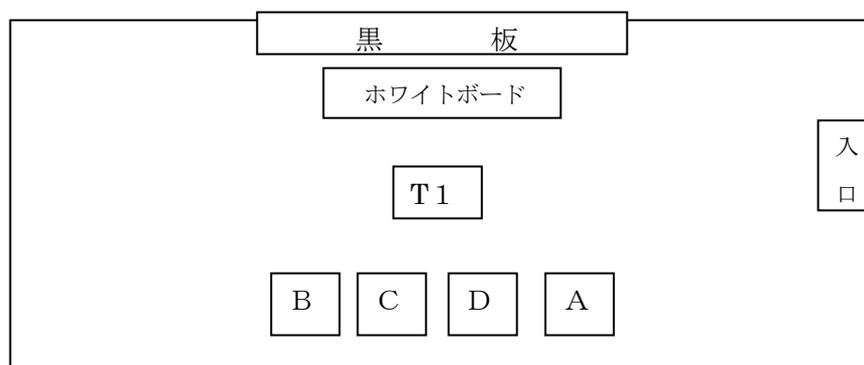
20分	6 聞きとりメモを書く。 ○簡単な文章を聞き、メモをとる練習する。  ○書いたメモを読んで確認する。	○「明日の時間割で用意するもの」「校外学習のお知らせ」等身近な例で文章を作り、読み上げる。 ○聞き取りやすいように、大事なところは強調してゆっくりよみあげるようにする。 ○メモをとる際に、それぞれ個別に注意するところを確認する。  ○A・D：ていねいに大きめの字を書く。 ○B・C：漢字が分からない時は平仮名で書く。 ○全員：途中でしゃべらない。質問は後で。  ○二人一組で書いたメモを読み合い、正しく書けているか確認する。	メモ用紙
2分	7 本時のまとめと次時の学習を知る。	○メモをとる際に大事な項目について再確認する。 ○次時はお互いに文章を読む人とメモをとる人に別れ、相手に分かりやすい話し方についても練習することを伝える。	
1分	8 おわりのあいさつをする。	○教師に注目し、姿勢を正してあいさつをする。	

#### (4) 評価

評価の基準 (◎できた ○一部支援を受けてできた △できなかった)

氏名	評価の観点	評価	特記事項
A	○集中して話を聞くことができる。 ○話の中の大事なポイントを聞き取ることができる。 ○丁寧な文字でメモをとることができる。		
B	○静かに集中して話を聞くことができる。 ○話の中の大事なポイントを聞き取ることができる。 ○時間内に素早くメモをとることができる。		
C	○静かに集中して話を聞くことができる。 ○先生に聞き返さず、自分でよく聞いてメモをとろうとすることができる。		
D	○集中して話を聞くことができる。 ○話の中の大事なポイントを聞き取ることができる。 ○丁寧な文字でメモをとることができる。		

#### (5) 座席表



(6) 板書計画

聞きとりメモを書こう
いつ
どこ
だれ
なに
用意するもの

※ 参考文献：「グングン伸びる・脳力を育てる きくきくドリル BOOK①～③」  
和田秀樹 監修 村上裕成 著 文溪堂

## 効率化、共有化～算数・数学授業の指導～ 研究班

### ア 研究のねらい

近年、本校児童生徒の障がいの多様化が進んでおり、教科指導においても各学部でグループ別学習など、様々な工夫をして取り組んでいる。しかし、グループ内でも個人によって理解度に差が大きかったり、苦手なところが違ったりと、個別の目標に合わせた指導が必要となっており、教員側の教材の準備等も複雑になってきている。授業の指導内容や情報を持ち寄り、そして教材等を共有化することにより、児童生徒により充実した指導を行っていくことを大きなねらいとしている。

### イ 研究の内容

#### ① 算数・数学の授業に関する情報・意見交換

各学部ごとの取り組み、年間計画、題材、内容、指導方法等の情報を持ち寄り、意見の交換を行った。どの学部も共通して指導している内容もあり（お金、時計、長さ等）、成長段階ごとの指導の流れや支援方法について確認した。

#### ② 算数・数学に関する使用教材・教具の共有化

各学部ごとに使用している教材・教具をまとめて、持ち寄り情報を共有した。（配布資料あり）最近では無料のインターネット学習プリントや、教材、アプリケーションなど便利な情報があふれており、それを使いやすいようにまとめた。指導内容ごと、段階ごとなど今後使いやすいように情報をまとめていきたい。現在学部ごとにそれぞれ保管して使用している教具についても、確認をして、今後必要なもの、欲しいものなど話し合うことができた。

#### ③ 研究授業の実施

初任の先生方が中心になって、研究授業を行った。実際に見に行くことは難しかったが、授業内容のDVDを皆で視聴し、意見交換や改善点について話し合った。なかなか時間がとれず十分な協議をすることができなかつたため、今後は早めの実施と話し合いの機会をつくる等の課題ができた。検証授業までは行うことができなかったため、今後やっていきたい。

### ウ 成果と課題

- 普段あまり知ることができない他学部・他学年の指導、支援の方法や情報等を話し合うことで、新たな課題や指導方法に気づくことができ、それぞれの授業で実践・活用することができた。
- 今回教材・教具について整理することができた。
- 研究授業においては、より多くの職員で授業を参観し、意見を交わすことで、よりよい評価・改善につなげる必要がある。